

アセンションBOOK27

ファースト・コンタクト3

2016年8月

ファースト・コンタクト3  
真実が明らかにされてい  
く地球



真実が明らかにされていく地球 目次

○第1章 闇の世界から復活したスター・ピープル

○第2章 奪われそうになった地球の未来

○第3章 創造主に試練を与える創造主のたくらみ

○第4章 愛の度合いとアセンション

○第5章 学びの世界に残る神と新しく生まれる神

○第6章 悲しみのアセンション会議

○第7章 シャンバラの聖者の来訪

○参考資料 光りの世界の区分

作者 瀬戸武志&宇宙の光

アセンションブック

<https://www.k-suai.com/sp/index.html>

宇宙の光公式HP

<http://hikari1.com/sp/index.html>

アセンション評議会

<http://s-sun1.com/sp/index.html>

アメブロ光の世界へ

<http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI

[yume34@k-suai.com](mailto:yume34@k-suai.com)

イラスト

えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ

<http://ameblo.jp/angel-art2010/>

# 第1章 闇の世界から復活したスター・ピープル

## PART1 動物の生育を見守るスター・ピープル

2016年の8月は、この天の川銀河にとってもさらに素晴らしい時となりました。古代シリウスの叡智あふれるスター・ピープルであるジャラッド星人達が7月末に、深い闇の中から助け出されましたが、それに引き続き同じシリウス系のスター・ピープルが、再び目覚める事になったのです。

そして「狂気の創造主」によって、正当な理由もなく闇に落とされたいくつもの星々のスター・ピープル達が地球のアセンションを前に次々と復活する事になりました。

もし、私達がアセンションをやり遂げてしまえば、彼らが落とされている闇の世界とは、私達は一切かかわれなくなりますので、彼等が存在している闇の世界には一切入って行く事が出来ません。

地球のアセンション前のこの時期が、彼等にとっては最後のチャンスとなるようです。

特に「狂気の創造主」の動きを注視してきたロッド星人達にとっては、自分達のパートナーとなるべき優秀なスター・ピープル達が、何種族も「狂気の創造主」によって闇に落とされてしまったのは、耐え難い悲しみでした。いくつもの優秀なスター・ピープル達を育て、彼らに天の川銀河の発展を託していただけに、「狂気の創造主」の暴挙は許しがたい物だったのです。

私達は、ロッド星人と共に、アセンション前の最後のチャンスに望みをかけるスター・ピープル達を救い出す事にしました。

今回は、その中でも重要なスター・ピープル達を4種族ご紹介しましょう。

ある朝、恵理さんは奇妙な夢を見ました。

恵理さんが見た夢は、猫やネズミのような小さな生物が巨大化して、大きなライオンや象が小さくなっている夢でした。

その世界は、いつも虐待されている動物達の悲しみや苦しみ、憎しみに満ち溢れています。そこに生きる猫達は、かわいい存在ではなく、自分達が虐待された恨みをこの世界で晴らそうとしているようでもありました。

そして、別のシーンに移り変わります。

そこには、希望を失って力なく過ごしている猫や犬などの動物達があります。

ずっと人間達に飼われていたにも関わらず、人間達から見放されて邪魔物扱いされていたような動物達です。

動物園で飼われていたようなライオンや象、キリンのような動物達もいますが、彼等も絶望しきっています。

ただすべてを諦めて死をまっているような姿です。

また別のシーンに変わります。

そこには、希望を失った人間達が、列車にうつろな目をして乗り込んでいます。

列車に乗ってもお互いが寄りかかるような状態で全く無気力です。

そして駅に着くと、まるで列車から吐き出されるように列車から出てきて同じ方向に向かって力なく歩いています。

私達は、この夢の意味を探るために、この夢

のエネルギーがどこから来ているのか探すために、ピカフラシュに頼んで、夢につながっているラインを辿っていきます。

するとこの夢は、地球の人々や動物達の潜在意識と深くつながっています。

今、地球のアセンションを前に、このような虐げられた人間や動物達の感情が、地球の奥深くから沸き起こってきているようです。

私達は、この感情を操っている地球外生命体達がいなか調べるために、さらにピカフラシュに探索をお願いします。

すると、深い闇に沈んだ星が見えてきました。7月の末に深い闇の世界から復活したジャラッド星が、その星を食い入るように見えています。

「TAKESHIさん、この星は、私達とも関係が深かったシリウス星系の星です。

おそらく私達と同じように「狂気の創造主」によって、深い闇の中に落とされたのだと思います。

そして、その苦しみや悲しみを、地球に住む人の潜在意識を通して、TAKESHIさん達に伝えてきたのではないのでしょうか。

どうか、彼らを助けに行ってください。」

すぐに私達は、フェニックス号に乗って、その星に向かいました。

もちろん、この星を闇に落とした張本人である元「狂気の創造主」を連れて。

フェニックス号が星に近づくと、とても大きな憎しみや悲しみのエネルギーにあふれています。

彼等は、ジャラッド星よりはまだ若いスター・ピープル達でしたので、自分達が闇に落とされたときに、自分達の感情を綺麗に浄化する事が出来ずに、その感情に捕らわれてい

るようです。

私達はまずその星に浄化の光を送りました。星の中に立ち込めた重苦しいエネルギーが少しずつ少なくなり軽くなりました。

その時をねらって、元「狂気の創造主」である「全ての意識を成長させる創造主」がいきなり星を光の世界に引き戻してきます。

星が、私達と同じ世界に戻ってきました。

この星は、シリウス星系に会った古代シャルロッド星人である事が分かりました。

彼等も古代ジャラッド星と同じように、正義と規律を守り、「宇宙の愛」に基づき進化を繰り返してきた星々のようです。

私達は、復活した彼等と呼び、話を聴く事にしました。

## PART2 シャルロッド星人からのメッセージ

私達は、ジャラッド星人と同じように、狂気の創造主のために、闇の世界に落とされたものです。

私達が、闇の世界に落とされたのは、ジャラッド星人よりもはるかに後の時代で、シリウス星系が核戦争の危機に瀕していた時でした。

私達は、自分達のマスターとも呼ぶべきジャラッド星人達をうしない、狂気の創造主の闇によって洗脳されたシリウス星系の人々によって絶え間なく争いを繰り返していました。

昔は叡智にあふれ、人間性と科学技術のバランスが取れていたシリウス星系ですが、凶悪

な生命体達が入り込んできたために、シリウス星系の星々も精神性よりも科学技術の進化を重んじるようになってきました。

私達のもっとも基本である「宇宙の愛」は、凶悪な生命達によって無残にも破壊され、シリウス星系の星々は、破壊と侵略をむさぼる星々へと変わっていったのです。

そして日増しに核戦争への危険性が増大していきました。

我々はいくらなんでも核兵器は使用しないだろうと考えていましたが、核兵器が大好きなグラッド星人達の手には堕ちた長老達は、お互いの侵略戦争をさらに過激なものにするために、核兵器の使用を現実のものとして考えていました。

いくつかのシリウス星系の星の人々は、自分達の星の指導者がすでにシリウス人はなく、彼らの体を乗っ取ったグラッド星人である事に気づいたのです。

それも一つや二つの星ではなく、シリウス星系の戦争に加担している星々やその星を陰で支配している星の指導者達も、すべてグラッド星人やその手先達によって動かされていたのです。

私達のように平和を愛する者は、シリウス星系のどの星にもいます。

私達は、ひそかに連絡を取り合い、星々の指導者達を、何とかグラッド星人やその手下達から引きはなしまともな状態にできないかと、何度も話し合いました。

しかし、現在の状況では、星の指導者とその指導者に成りすましたグラッド星人達を処理する事は困難を極めました。

中には、指導者達を暗殺するしかないという過激な意見も出ました。

あるいは、宇宙連合に助けを求めるほうが良いという意見も出ました。

しかし、指導者を暗殺したところで、星の運営を行う者達のほとんどが、グラッド星人達の手下になっているでしょうから、指導者を暗殺してもすぐに次の指導者が出てきます。そればかりか、暗殺を計画した事で、我々だけでなく我々の親族や友人達がすべて捕えられ、報復として殺されてしまうでしょう。

また宇宙連合も、その中心メンバーに多くのシリウス人が入っていますので、彼等に見つかり情報ほうやむやにされ、同じような報復が待っている事でしょう。

いまや宇宙連合にも、このシリウスの争いを止める事はできないのです。

私達のグループの中には、創造主様にお願いしようというものもいましたが、過去にアンドロメダ星系のグルタニユ星人が、その方法を使って失敗し、闇の世界に落とされた事もありましたので、その方法も使えませんでした。

私達にできる事は、様々な星を巡り、シリウス星系の実情を訴えて、どこかの星や星系の人達が、私達を助けるために立ち上がってくれる事を期待する事だけでした。

しかし皆さんは、同情こそはしてくれるのですが、天の川銀河でも、最大の科学技術と力を持っている上に狂気の創造主によって牛耳られているシリウス星系にたてつこうという星々はありませんでした。

そして恐れていた事に、シリウス星系の指導



者が、私達の動きに気づき始めたようです。仲間達が捉えられ尋問されたりして傷つけられる事が増えてきました。

私達は、取るべき道は、2つしかないと思いました。

ひとつは、このシリウス星系から逃げ出して新たな新天地をさがすための旅に出るか、私達を支援する星に全員で集まって、徹底して戦うか、の2つです。

私達は、残された時間がない中で考えました。そして、成功する確率は少ないのですが、両方の道を試してみる事にしました。

おそらく一つの星に集まって戦っても、狂気の創造主が手を下せば数秒の内に、私達は闇の中に落とされるでしょう。

また、シリウス星系から逃げ出したとしても、私達の宇宙船が見つければ、すぐに打ち落されてしまうでしょう。

両方とも成功する確率はとても低いのですが、やらないわけにはいきません。

私達は、自分達のグループを2つに分けました。

若い人達を中心とした少数のグループとそれ以外の人達のグループです。

私達は、反乱軍が、シャルロッド星に集まる、というデマを流しました。

シリウス星系の指導者達は、私達がシャルロッド星に全員集まったところで、全員を捕まえるか、星ごと核兵器を打ち込んで破壊するか、行うでしょう。

あるいは狂気の創造主が、一瞬で闇に落とすかです。

しかし、シリウス星系の指導者が、私達がシャルロッド星に集まるまでは何もしないと考えましたので、その間に目立たないように

若い人達を中心としたグループをシリウス星系以外の場所に脱出させる事にしました。風が吹きまくる夜、私達の子供をのせた宇宙船が静かにシリウス星系を離れました。

幸いな事に、私達を陰で支援してくれたデジャビロッド星人により宇宙船は守られ、無事シリウス星系を出て、さらに天の川銀河を出た星へと、誘導されました。

この星は、後で話を聞いたところ、ブラッド星となり、天の川銀河の発展途上の星々の指導を行っていているようです。

そして残った者達は、シャルロッド星に集まりました。

私達には、自分達の未来に対する希望はもはやなく、シリウス星系を逃げ出した子供達にかすかな望みをかけていました。

そして、私達がシャルロッド星に集まった事を確認すると、狂気の創造主が、襲い掛かってきました。

嵐のごとく吹き荒れる凶暴なエネルギーに私達は身を咲かれる思いで耐えましたが、やはり風がやんだときは、私達は、永遠の闇の中にいました。

それから何億年と、私達は闇の中に閉じ込められました。

確かに、闇の閉じ込められた時間は永遠のような時間でしたが、その方がまだ、幸せだったかもしれません。

シリウス星系はその後、グラッド星人達により、容赦ない核戦争の修羅場と化したのです。多くの者が、各兵器の犠牲となって死んでいきました。

いえ、その場で死ねたものの方が、まだましだったかもしれません。

度重なる核兵器の爆発で、人々は多大な放射

能汚染に会い、死ぬよりも過酷な時間を過ごさなければならなかったのです。

シリウス星系の星々も、多くが放射能汚染にあって人が住めないような星になってしまいましたが、多くの人々は移り住む事も出来ずに苦しんでいきました。

このシリウス星系が、立ち直るのに、とても多くの時間と多くの星の人々の支援が必要でした。

私達は、深い闇の中に閉じ込められたまま、その後のシリウス星系とはコンタクトが取れなくなりましたが、先日 TAKESHI さん達によって救いられました。

今では立派に立ち直ったシリウス星系の星々を見て大変うれしく思います。

しかし、あのシリウス大戦争の時の流れを引くディセンションしたシリウス人達もたくさんいる事に大変な苦しみをもちます。

彼等は、未だに多くの星々に対して乱暴で支配的な立場を取り、多くの発展途上の星々が犠牲に会っているようです。」

私達も早く力をつけ、皆さんのようなすばらしいスター・ピープルと共に、働きたいと願っています。

### PART3 闇に落された舞姫達の星

私達がシャルロッド星の後に案内された星は、とても奇妙な星でした。

それは、プレアデイス星系の近くの星でしたが、音楽の演奏をしている人や、絵を描いている人、小説や詩を書いている人、踊りを行

っている人達の様な芸術家や表現者達の映像が、彼らの感情と共に渦巻いている世界です。

彼等は、認められない苦しみやお金のために書きたくない絵を描かされたり、自分の求めるものではない創作を無理やり行わされている様な苦しみの感情を持っていました。そして共通する感情は、抑圧と自己犠牲です。彼等の重たい感情が星を支配し、闇を深くしているのです。

私達は近くまで行き、その星に渦巻いている感情を光に変えていきます。そして光の世界へと戻して行きました。その星は、まだプレアディスが、生まれたばかりの若いときに活躍していた星です。この星に一体何が起きたのか、話を聴く事にしました。

\*\*\*\*\*

プレアディス星系に近い場所に、私達のスラニューム星がありましたが、狂気の創造主によって、遠い過去に封印されてしまいました。今回はデジャビロッドさんや TAKESHI さん達に、助けていただき大変ありがとうございました。

私達の星の名前は、スラニューム星と申しておりました。皆さんが良くご存じのプレアディス星団も若々しく、ほとんどの星はアセンションをむかえる前で、それほど発展してはおりませんでした。

私達の星は、以前より祭祀の儀礼に精通した星として有名でした。

それはこの当時、天の川銀河やプレアデイス星団を治めていた創造主様が、私達の星に良くお立ちよりになり、さらに高次の創造主様に祈りを捧げるといった儀式を執り行っていたからです。

その創造主様は、天の川銀河やプレアデイス星団の統治にかかわるマスターや女神をよく及びになり、私達に神聖なる舞を踊るようにお申し付けになりました。

私達も、創造主様より、舞に関わる神聖な力をいただきました。

それは、私達が舞い踊る事により、見ている皆様の力を増したり、未だ開花していない能力を目覚めさせる事が出来るようなお力でした。

私達の星には、プレアデイス星団や天の川銀河の星々の人達も良くいらっしゃっていました。

私達は、その人のエネルギーをみて、その方が良心的な人々か、悪意のある人々かをすぐに見分ける事が出来ました。

もちろん、私達の星は、とても清らかなエネルギーを持っていましたので、悪意のある方が入ってくる事は滅多にある事ではございませんでした。

人々は、私達の舞を見て喜び、そして大いに力を増して帰って行かれました。

創造主様もその様な姿を見て、プレアデイス星団や天の川銀河が進化していくならば、私達の舞をどんどん活用すべきであるといってくださいました。

私達は、創造主様をととても敬愛し大切にしておりました。

しかし或る時、大変な事件が起きてしまいま

した、  
いつもの創造主様が来られましたので、私達は喜んでお迎えしたのですが、明らかにいつもの創造主様とは異なるエネルギーの方でした。

だれかが、創造主様に化けてこられた事に間違いがないようです。

その方は、自分の能力を高める為に、私達に特別の舞を行うように強要されたのですが、私達は悪意を持つ人の前で踊る事はできないのでお断りをいたしました。

すると創造主に化けられていた方が、本当の姿を現しました。

その方は、その当時、様々な星で問題を起こしている「狂気の創造主」である事はすぐに理解出来ました。

私達は、困ってしまって、自分達が敬愛する創造主をお呼びしましたが、その祈りも「狂気の創造主」の力がかき消されてしまいました。

私達は、このままでは全員が殺されてしまうと思い、どうしたらよいか悩みました。

その時、私達のリーダーがこのように言われました。

「それでは、私が彼の前で踊りましょう。しかし、いつもの踊りではなく手順を変えて舞いましょう。

そうすると、狂気の創造主は力を得るのではなく、力を失うはずですから、その間に皆さんは逃げてください。」

私達はちょうどその時来てくれていたプレアデイス星団の方の宇宙船に乗せてもらって逃げる事にしたのです。

リーダーとリーダーの踊りの演奏をする数名の者だけを残して、他の者達は急いで逃げる準備をしました。

おそらくリーダーが創造主の力を落とすといっても、あれだけ強大な力を持った方ですので、その力はほとんど変わりがないと思ったほうが良いでしょう。

リーダーの踊りが、おかしいと思われた瞬間に、この星は破壊されてしまうでしょう。

私達は、リーダーの踊りが始まる音がするとすぐに、10名ほどの私達の仲間を載せて宇宙船を発進させました。

私達は、リーダーと共にこの星に残り、「狂気の創造主」が、私達の踊りの異変に気付かないように努めなければなりません。

リーダーと私達は、神々にささげる舞を演奏し、リーダーは通常とは異なる順番で踊りました。

「狂気の創造主」はしばらく目を閉じていましたが、演奏をしている者が緊張のあまり、楽器の弦を切ってしまいました。

弦がはじかれる音によって、目を覚ました「狂気の創造主」は、自分の体の様子がおかしい事に気づき、自分をだまそうとしたな、と怒って叫びました。

そして無防備なリーダーを弾き飛ばすと、私達の星は一瞬にして真っ暗な闇に閉ざされました。

「狂気の創造主」が私達に封印をかけているようです。

どうやら、私達の星は、闇の中に吸い込まれるように落ちていきました。

私達は、もうすでに自分達の未来について、何の希望も持っていないので、その闇に声

も出さず耐えていました。

やがて闇はすこしだけ晴れ、薄暗く寒々しい場所に私達は閉じ込められていました。

それから、私達の時が止まったようです。

私達は、おそらく何億年という間、年もとらずに生き続けました。

しかし、時がたつにつれ不思議な事がおきました。

私達のように舞を踊る者、楽器を演奏する者達の苦しみや悲しみの感情が、どんどん私達の星に襲いかかってきたのです。

芸術家の満たされない思い、苦しめられた思い、報われない思いがどんどん、この星の中にやってきて渦巻いていくのです。

やがて、舞を踊る者や楽器を演奏する者だけでなく、絵を描く者、言葉で語る者、美しいものを創造する者等の全ての表現者達の思いが、さらに強く私達の星を襲い、渦まいていくのです。

私達もこの渦に巻き込まれ、希望を失い、絶望感に捕らわれていきましたが、私達はすぐに、この闇の渦巻は、自分達の心が呼び寄せているのだと気づきました。

しかし気づきはしたのですが、この助かる見込みのない状況で、その絶望感を手放す事はできませんでした。

私達の心の中に、さらに大きな絶望感と憎しみが生まれていきました。

その感情は、この宇宙中の表現者や芸術家の苦しみや悲しみを誘い、まだ生きている彼等を、私達と同じ絶望感の中に引き込んでいったのです。

その事によって、創作意欲を失い自殺したり、



自分を傷つけて 2 度と芸術家としての活動が出来なくなった者達もたくさんいます。

神聖なる舞を踊り、皆さんに力を与えていた私達が、今は多くの芸術家達を絶望させ死に追いやっていったのです。

私達は、出来るならば、自分達の命を絶って、この絶望の星をなくしてしまおうと思い、何度も何度も自分の胸にナイフを突き立てたのです。

あるいは、お互いの体にナイフを刺しあうのですが、その時は大きな痛みを味わい死んでしまったとしても、次の瞬間にはまた生き返っているのです。

私達が、永劫の苦しみから抜け出す事なく、多くの芸術家達を死に誘い続けました。

長い長い時間が過ぎ去りましたが、ようやく私達にも希望が見えてきました。

デジャビロッドの方から、「もうすぐ助けに行く」というメッセージを受け取ったのです。

そして TAKESHI さん達が来てくださり、私達はようやく永劫の苦しみから解放されました。

私達は、再び自由を得たのです。

私達の星も、再びプレアデイス星団の近くに戻していただきました。

本当にありがとうございます。

プレアデイス星団に行ってみますと、私達がいた時とは比べ物にならない程進歩していました。

どの星も素晴らしく魅力的な星ですが、特に、セレーノと呼ばれる星では、私達の子孫達が活躍しているようでした。

あの時、プレアデイスの方の宇宙船で逃げ出して、このセレーノ星に連れてこられたよう

です。

セレーノ星は素晴らしい芸術の星となっていました。

もちろん、あの時逃げ出した者達がいるはずもないのですが、セレーノ星の女性達を見ると、自分達の仲間達を見ているようでとても嬉しくなります。

私達は、あの絶望の中から救いだしていただきましたので、この地球のアセンションにご協力させていただく事で恩返しをさせていただきます。

私達は、地球と皆さんのために舞い踊る事で、地球と皆さんを勇気づけ、必ず素晴らしいアセンションが成し遂げるようにさせていただきます。

#### PART4 アルクツールス星系の希望の星

私達は更に闇に閉ざされた星々の救出に回ります。

今私達が救出しなければ、第一次アセンションが終わり、私達が光の世界にはいると完全に闇の世界と分かたれるので、彼等を助け出しに行く機会はなくなります。

この地球の第一次アセンション前に、彼らを救い出して、地球のアセンションを手伝ってもらう事は、創造主の中でも決められていた事のようにです。

次に助け出したのは、アルクツールス星系の星です。

彼等からも、メッセージを聞くとしましょう。

\*\*\*\*\*

私は、今回皆さんから救いだしていただいた  
アルクツールス星系のウナァジャッド星人  
です

私達も狂気の創造主によって星ごと闇に落  
とされた者達です。

私達が、闇の世界に落とされた理由は、狂気  
の創造主が、私達の魔法力を邪魔に思ったか  
らです。

私達は、古代のアルクツールスの星系で、  
人々の幸福のために宇宙の特別な力を研究  
してきました。

皆さんが魔法と呼ぶような力の事です。

その当時、狂気の創造主が、私達のアルクツ  
ールス星系に関わってきた事がありました。  
その頃、アルクツールス星系では、宇宙の叡  
智や神秘的な力を利用して、人類を進化させ  
るための研究が盛んにおこなわれていまし  
た。

私達を中心として、多くの星が魔法や叡智を  
学び、天の川銀河の柱となるように努力して  
いたのです。

私達の事を応援してくれる創造主様もいま  
したので、私達の進化は思った以上に進みま  
した。

そこに、狂気の創造主が現れたのです。

彼は、私達を指導する創造主と対立していま  
した。

その創造主が行う事は、なんでも邪魔してや  
ろうと考えていたのです。

狂気の創造主は、どんどん進化していくアル  
クツールス星系の星々を嫌って、中心的な星  
のいくつかを闇の中に落としてしまったの  
です。

アルクツールスの中心的な星は、非常に倫理

観が高く狂気の創造主の命令に従う事はありませんでしたが、そのほかの星は、恐れのため狂気の創造主に従う事を認めてしまいました。

狂気の創造主に従った星の者達は、闇に堕ちていく代わりに、強力な魔法力と人の心を操る力を得たのです。

それ以来アルクツールス星系では、非倫理的な魔法が横行してしまいました。

魔法や宇宙の叡智が、他の星々を侵略したり、人々を傷つけるために利用されてしまったのです。

それは今となっては、アルクツールスの闇の時代とも言えるでしょう。

それ以来、シリウス星系とアルクツールス星系の 2 本柱を失った天の川銀河は進化への道を絶たれ迷走する事となったのです。

私達を指導してくれた創造主は、狂気の創造主の目の届かない所で、闇に堕ちていったアルクツールス星系の星々をどんどんディセンションさせていきました。

そして、光の世界へと向かっていく星々とは関わる事がないようにしてくださったのです。

そうしなければ、天の川銀河の健全な星々も、彼らの餌食になってしまう可能性が強かったからです。

ディセンションしたアルクツールス星系の星々は事ごとく闇の創造主とひとつにつながっていきました。

そして、闇のアシュタールや紫ピラミッドと呼ばれる様なディセンションした星々の連合体を作り、天の川銀河の闇のリーダーとして他の星々を支配したのです。

彼等の魔法力や狡猾な知恵はその時から、ずっと天の川銀河の星々を苦しめてきました。しかし、アシュタールや宇宙連合が出来るにつれ、光の世界では、彼らの動きも抑えられてきたようですが、そうでない世界では、彼らの狂気じみた破壊活動は続いているようです。

今回皆さんが地球のアセンションに伴って、地球を支配するためにやってきたアルクツールズ星系の者達をたくさん光に返してくださいました。私達も安心しました。

もとはと言えば、同じアルクツールズ星系の仲間ですので、彼等が愛に基づかない暴挙を行う事に私達も苦しんでおりました。

彼等が、少しでも早く学びを得て、私達、光のアルクツールズと共に歩む事が出来ればこれに勝る喜びはありません。

私達は、皆さんがアセンションする前に、私達を助け出していただいて本当に良かったと思います。

私達は、闇の中に落とされても、私達の魔法力を高め、以前の世界の事を知る事も出来ましたし、何度かアルクツールズ星系の重要な局面には、残された者達にメッセージを送る事も出来ました。

しかしこれからは、私達も他のスター・ピープルと共に、皆さんのアセンションを成功させ、天の川銀河全体のアセンションも成功させていきたいと考えております。

## PART5 古代ウナアジャッド星人達のメッセージ

今回、私達が地球のアセンションで行う事は、ディセンションした星々の者達から、この地球を守る事です。

彼等は、通常のスター・ピープル達では、対応できない能力とパワーを持っていますし、精神のコントロールにも大変優れています。

地球の人達は自分達をはるかに上まわる彼等の力には到底太刀打ちができないと思います。

彼等は、皆さんを様々なヒーリングや信仰、お金儲けの方法でおびき寄せ、皆さんと一体化して、地球での活動基盤とします。

彼らが一体化した人々は、特別な力を持ちますので、他人に対して大きな影響力と支配力を持ちます。

そしてヒーリングや宗教、ネットワーク販売や株式の売買、IT の開発などをおして、お金と名声、そして人々の崇拝を得ます。

皆さんは、その力にどんどん酔いしれ、自分の活動を広げて仲間づくりをします。

アルクツールス星系の者達は、その様にして作られたグループや教団などを巧みに支配し、現実世界での力を拡大してきます。

現実世界でも、スピリチュアルの世界でも、彼らはそのようにして、自分達のテリトリーを広げ、世界を支配し奪い去っていきます。

スター・ピープル達は、現実世界で人と一体となった地球外生命達には何の手出しもできませんので、彼等の行為を止める事はおろか、彼等を発見する事さえもできずに侵略されていくのです。

創造主達も同じで、地球人となった彼等の行為を止める事はできません。

幸いにも、この地球には、TAKESHIさんと

アシュタールを初めとするスター・ピープルの皆さんが、しっかりと連携を取っていらっしゃるのです、地球人と一体化した地球外生命体も見つける事が出来ますし、彼等に対して有効な処置をとる事ができました。

私達は、皆さんのお手伝いをしながら、特に人と一体化していない地球外生命体達の処理を行なっていきたいと思っています。

人と一体となっていないければ、私達にも彼等の活動が見えますし、彼等が何を考え、何をしようとしているのか分かりますので、皆さんに先駆けて、私達の方で彼等に対抗したいと思っています。

もちろん私達だけで処理する事が出来ない事もありますので、その時は、アシュタールの皆様やスター・ピープルの皆さんと共に、処理を行ないたいと思います。

\*\*\*\*\*

私達から地球の人々へのメッセージです  
どうか、自分の内なる心と深くつながってください、

皆さんに取って有害な地球外生命体達は、皆さんの心の隙間に侵入してきます。

それは、皆さんの寂しさや不満足感、愛されていないという愛の欠乏感や自分がしっかりと認められていないという不満足感、お金や物品、あるいは恋人がほしいと思う欲望、他の人達を支配したいと思う気持ちが、彼等と呼ばせざる隙間となります。

あなたが、自分の内側を向かずに、外にあるものばかりに気を取られ、望んでいる時に彼等はやってきます。

彼等は、まずあなたの欲望を満たす事からは

じめます。

ヒーリングや宗教、株式などをやって、普通よりもお金がたくさん入ってきたり、人から先生と崇められたり、まずあなたの気持ちを満足させる所から、あなたに取りいってきます。

あるいは、特殊な能力や技術を持った人、誰よりも多くの収入や名誉を得た人など、あなたを心酔させるものを持っている人達に依存してしまった時に、あなたの理性は揺らぎ、あなたの心の主導権を奪われてしまいます。

もしあなたが、現在、誰かにコントロールされているような気がしたり、何かに夢中になっているとしたら、あなたの心から理性を奪い、あなたを中毒にさせている物がないか調べてください。

多く人は、この段階では、「いや、そうじゃない。」と自分がしている事を正当化するでしょうが、やがて、今迄の自分とは違う世界に入ってきている事に気づくでしょう。

ただ難しい事は、たとえその世界が、本当に素晴らしい世界のように見えていても、あなたの意識が、彼等にコントロールされている事もあるのです。

あなたの意識には、自分が行っている事が、有益でとても素晴らしい事のように思える事がありますが、気づいてみるとそうではなかったと思える事が良くあります。

多くの新興宗教にも同じ事が言えます。

その世界の中にいるとその世界こそが真実であると思えますが、その宗教からはなれると、まるで映画館を出たときのように、今迄の世界が作り物であった事が分かるのです。



今迄は、皆さんは、様々な映画を映しだしている映画館の中にいるような状況です。自分達とあなたに関わる地球外生命体達によって作られた映画を見ていました。しかしアセンションは、その映画を終わらせ、皆さんを映画館から外に出す事です。あなたが、現実存在している世界の本当の姿を見るときがやってきたのです。今迄の幻想をはねのけ、新しい世界の幕が上がります。

今度はだまされる事なく、あなたにとって真実の世界を見てください。私達は、そのために、幻想のとばりを片付ける準備を行っています。

## PART6 グルタニュ星の叡智のケンタウルス

しばらく時間を空けてから助けに行ったのは、古代アンドロメダ星系にあったグルタニュ星です。この星は、古代アンドロメダの科学と哲学を確立した叡智あるスター・ピープル達によって運営されていた星です。

グルタニュ星の中心は、非常に聡明で礼節をわきまえたケンタウルスの種族でした。彼等は、宇宙工学や科学技術に長けていましたが、人々の精神性を重んじる種族でした。古代アンドロメダの科学と哲学は、グルタニュ星のケンタウルスと彼らに学んだ人々から始まったようです。ケンタウルスの種族は、グルタニュ星から外に出る事はなかったようですが、彼等に学んだ人達は、アンドロメダ座のいくつもの星に、

その技術と哲学を教えるために派遣されていきました。

グルタニュ星は「狂気の創造主」によって5000 万年前に闇に落とされましたが、他の星に派遣されていた人達により、彼らの科学技術と哲学は、アンドロメダ座全域に伝えられる事になりました。

もちろん、グルタニュ星ほどの科学技術と哲学の水準に達するには長い時間が必要でしたが、グルタニュ星がつくり上げた叡智により、アンドロメダ座は、今でも天の川銀河の中心的な種族として活躍しています。

この章では、彼らの話から、グルタニュ星が闇の世界に落とされたいきさつやその中で学びとった事などを、彼らの言葉のままにご紹介したいと思います。

\*\*\*\*\*

自分達の星の中で突然異常気象が起こりました。

自分達はいつも科学的な見地から気象の研究をしていたので、気象の乱れが或る時は、すぐに分かるのですが、この時は予兆がなく突然異常気象がおこったのです。

これは科学的ではないと判断し、原因を探しました。

自分達の星は「神の怒り」というような事は考えず、常に科学的な研究に基づいて判断していました。

しかし、この時の異常はどの理由にもあてはまりませんでした。

私の星の人々の意識も良好で、近隣の星の人達も安定した生活を送っていました。

私達の星が処罰を受けなければならないよ

うな事は何もありませんでした。

私達の星を守護するクリスタルと共に瞑想して原因をさがしました。

すると大きな創造主クラスのが、私達の星に加えられていた事を感じました。

私達は更に瞑想し、この創造主に問いかけ、何故私達の星に天変地異を起こしているのかとききました。

何回か問いかけたところ返事が来ました。

これは、私達を成長させるために起こしていると創造主は答えました。

私達は、このような天変地異がなくても成長する事が出来るので、このような事は起こさないでくださいとお願いしました。

しかし創造主は、聞いて下さらなかった。

その為に、この創造主に對抗できる創造主はいないかと思い、祈りを続けていました。

この創造主を説得して、私達の星の天変地異をとめてくれる創造主はいないかと祈ったのです。

その祈りが、この創造主に聞こえ、この創造主は、私達に対して大きな怒りをもちました。自分の創造にケチをつけるのかと文句を言ってきましたが、私達は、それはおかしいと思いました。

自分達は他の星を侵略する事も星に共に住む人を抑圧する事もしませんでした。

私達の星は、他の生命を尊敬し平和な星の生活を維持していたのです。

その上で私達は科学や哲学を学び成長していきました。

自分達に落ち度はなく、創造主の怒りを買うような事はしていないと思いました。

その為に私達は創造主に引き続き訴えかけ

ていました。

しかし、星の異変は、自分達の星だけでなく周りの星にも異変がひろまってきました。平和な星が内戦を起こしたり他の星を侵略しようという動きがでてきたのです。

私達は、この創造主以外の創造主に向かって、このような状態を改善してもらおうよう祈り続けました。

するとこの創造主がさらに怒って言葉を伝えてきました。

「私の創造にケチをつけるようであれば、おまえ達を封印する。」といわれ、その瞬間に、私達の星を闇の中に落としてしまったのです。

闇の中に封印されていた長い年月は、今迄に体験した事がない苦難の連続でした。

私達は平和な星だったのですが、人々が創造主に対して強い憎しみや怒りを持つようになり、その怒りは更に広がり、やがて自分達の星の人達に対して責任をなすりつけるようになりました。

私達ケンタウルスは深い叡智を持っていたので、ケンタウルス以外の種族の人達に対しても闇に飲み込まれないように守ってきました。

私達の星が闇の中に落とされ、闇の世界で暮らすようになると、今迄になかった感情が芽生え、お互いを傷つけるようになりました。実際に住民の中には、心の中に闇が芽生えて、たとえ私達の星が、闇の世界を出たとしても、光の世界には戻れそうにない人達も出てきました。

約半数の人達がそのような状態になって死んでいきました。

最後に残ったケンタウルスとわずかな住民だけで、あなた方が、私達を助け出してくれるまでの 5000 万年近くを闇の中で生きてきたのです。

元々私達の星を守護していた女神達も常に守護してくれていたために、私達を深い闇から守ってくれました。

私達の星の科学技術は停滞しましたが、精神力は鍛えられました。

私達は、スピリットして他の星に転生する事も認められていなかったなので、半物質的な体で、子孫を生んで、この星の中だけで転生を繰り返しました。

私達の種族をそのまましておく、「狂気の創造主」に対抗する創造主が来て、自分の行っている事がばれてしまうと、「狂気の創造主」は私達を封印したようです。

「狂気の創造主」はデジャビロット星人を恐れていた所以、自分達がそうならないように早めに処理をしたのです。

私達の星はアンドロメダ座の歴史上残っている伝説の星ですが、忽然と消えた事でも知られています。

私達の星が残っていれば、天の川銀河の進化とアセンションは、もっと早く行われていたでしょう。

私達は、元の世界に戻り、創造主から強い光を受け、今までの闇を癒してもらえたので、今まで以上にパワフルな状態で TAKESHIさんと統合される事でしょう。

現在の最高次元の創造主はグルタニユ星が、闇の世界に落とされる事で達成出来なかったアセンションを一気に行い、私達の星を高い次元に持って行ってくれました。

現在はエリシタール星の2つ下くらいの次元にいます。

私達は地球のアセンションに直接協力できませんが、TAKESHIさんを通して協力できます。

ケンタウルスの星は、他の星に関わる事はあまりできませんし、グルタニユ星と地球の文化は、大きく異なるので、地球の進化にとっては、あまり役に達ません。

グルタニユ星の使命は、高い叡智と科学とスピリチュアルの一体化を目指す事です。

グルタニユ星はアンドロメダ座の伝説的な星です。

グルタニユ星が闇に落とされたとき、この星から他の星へ派遣されていた人々は、闇に落とされずに、他の星で生き続ける事が出来ました。

そして、他の星を進歩させていき、科学とスピリチュアルをひとつにして発展させていったのです。

その結果が、現代のアンドロメダ座であり、アンドロメダ座の星々は、グルタニユ星の子孫であるともいえます。

## PART7 グルタニユ星人からのメッセージ

私達は皆さんを直接サポートしたいのですが、それが出来ませんので、TAKESHIさんを通してメッセージを送りたいと思います。

私達が、闇の世界から目覚めて、地球の様子を見ると、地球はまだまだ闇が深く、目覚めが遅いように感じました。

確かに地球は闇から生まれた星ではありませんが、光をもったスター・ピープル達のサポートもありましたので、そこから十分に学び取る事も出来たはずですよ。

私達の星も闇に落とされて、闇の世界で生きる事を強いられましたが、かろうじて半分の人々は、心に闇を生み出す事なく自分自身を守る事が出来ました。

地球と私達の星では、文化も考え方も大きく違いますが、私達は、長い間、闇の中で生きる事に対して打ち勝つ事が出来たのです。地球の方達も必ずできるはずですよ。

これから光の世界に向かう人々にお伝えする事があります。

どうか、今迄の闇の世界で身に着けてしまった感覚を捨て去り、自分の中の光を十分輝かせ、光の世界で生きる感覚を感じてください。

そう伝えたとしても、皆さんは理解できないかもしれませんが、皆さんはもうすでに闇の中にはいないのです。

もうすでに光の世界に入り、スピリチュアルなレベルでは光の存在になっているのです。

その事を肉体レベルで実感できないのは、ただ闇の世界に長くいた体の癖なのです。

もうすでに、自分の中で輝きだした光を感じ、光の存在であればどのように行動すればよいかを感じてください。

光の存在というのは、まず自分自身を否定する事はしません。

自分自身を認め、自分の可能性を心から信じる事ができ、そのうえで自分がどう行動したらよいかを考える事が出来るようになるのです。

善悪の分別をしっかりとつけ、自分自身の問題からも決して逃げません。

光の存在というのは、良い意味で恐れを知りません。

自分の可能性と自分の強さを知っていますので、自分でいろいろな事を切り開けると心から思う事が出来るのです。

これは決して自分勝手な欲望や自分の願望を実現するといった事ではなく、自分自身を高める為の問題に堂々と立ち向かっていけという事なのです。

光の世界といっても、全てが思い道理になるような楽な世界ではありません。

今迄の地球のように、どんなに頑張っても乗り越える事が出来ないという問題が存在しなくなるだけです。

光の世界でも努力は必要です。

努力をして自分自身を高める事を忘れてはいけません。

皆さんは光の世界を少し勘違いしているように思えます。

光の世界にいけば、今まで虐げられてきた生活が取り払われ、自分が自由になれると考えている人がたくさんいるように思えます。

オートマタツクに何をしなくても自由になれるというわけではりません。

やはり自分自身が自由になるためには、自分で声を上げ、必要な事を実行しなければならないのです。

自分自身が立ち上がらなければ、自分を守る事はできません。

自分がされたら嫌な事は、はっきりと嫌だといわなければならないのです。



最後に、簡単ですが、皆さんが光の世界に行く法則を教えましょう。

まず、人の立場になって考える事を日頃から行う事です。

人の考え方、人の苦しみ、悲しみを思い、自分だったらどうするかという事を考えて行動してください。

そして地球の人にとって、最大の壁となるエゴと立ち向かう事。

たとえば、何か自分の欠点を誰かに指摘されたとしたら、皆さんが初めに起こす行動は、怒りによってその指摘を否定する事です。

注意してくれた人の言葉を様々な理由で否定し、反対にその人を批判しようとしめます。まずこの事を自分で律しなければなりません。

たいていの方は、相手の欠点を指摘するときに、同じように悩み考え、迷った末に、相手の方が良くなって貰おうと考えてその意見を伝えます。

まずその事にたいして感謝の気持ちを抱いてください。

こうしてしっかり伝えてくれる方は貴重な方ですので、しっかり聞き入れるようにしてください。

これはスピリチュアルの事ではありませんが、光の世界に行く人達は、日頃の日常の中でベストな状態になればいけないのです。それは、同じ日常を生きる人から尊敬され愛されなければならないのです。

日常で共に生きている人々から、賞賛されるようにならなくては、光の世界に行く意味がありません。

その様な現実的な世界での行動をまず大切にしてください。

## 第 2 章 奪われそうに なった地球の未来

### PART1 光彩の創造主の兄弟となる創造主の反乱

またいつものように、私達が寝ている時に、私達に地球人の感情が流れ込んできました。私達に対して、憎しみや怒りのエネルギーをぶつけて来る存在がいます。

だいたい、このような時は、人の意識の中に入っている存在が、地球のアセンションを妨げるためにこのような事をしてくる事が多いのですが、今回はそのエネルギーがとても強く感じられます。

いつものようにピカフラッシュをお願いして、このエネルギーがどこから送られているのかを調べてみると、

地球人のネガティブな潜在意識のかたまりが見えてきました。

これは、いつもの事なので、この地球人の意識を誰が操っているのかを調べてもらおうと、とても大きなパワーを持つ創造主が、地球人の意識を操っているようです。

私は、「光彩の創造主」と「神聖なる光の創造主」に来てもらい、この創造主の事を尋ねました。

「神聖なる光の創造主」が少し慌てたような顔をして答えます。

「確かにこの「破壊の創造主」は、かつて光の世界の創造主でした。

「光彩の創造主」と同じ時期にうみだされた創造主で、「光彩の創造主」の兄弟の様な立

場になります。

しかし彼の創造は非常に荒々しく常軌を逸したものでしたので、今回の地球のアセンションには関わらないようにと断っていました。

また彼が、地球とこの宇宙に関わる事がないように、他の宇宙に送っていたのですが、この時期に戻ってくるとは考えてもおりませんでした。」

「光彩の創造主」は、私達に申し訳なさそうな顔をしています。

「TAKESHIさん、恵理さん、本当にすみませんでした。

「破壊の創造主」は、私の兄弟の様な創造主で、いつも私と張り合っていました。

彼が出てきたという事は、私達にとっても越えなければならぬものが現れてきたという事です。

ここは、私が彼と話をし、決着をつけたいと思っています。」

私達は、この創造主に関しては「光彩の創造主」にお願いしてそのまま戻る事にしました。ただ、このままうまくまとまるかな、という気持ちだけが残ります。

私達は、この日は予定されていたクラシック・コンサートがあったので、お腹の中の子供も一緒にお出かけです。

クラシック・コンサートが終わって帰るころ、どうも変なエネルギーがまとわりついてきますので、私達は見晴らしの良い喫茶店で霧島の山々を見ながら、エネルギーをしらべてみました。

特に創造主やスター・ピープル達の目の届きにくい物理世界の近くにある場所や次元を、ファラオ達や日巫女族を総動員して調べま

す。

もちろんピカフラッシュも、地球の様々な次元を、エネルギーを使って調べています。

すると、地球の物理次元に近いところで地球外生命体達が、人々の意識と連携して人々に怒りや憎しみの感情を植え付けたり、絶望感や無力感を味あわせています。

このようにして、人々を感情レベルで操作して、学びの世界に留めようとするのです。

恵理さんと地球人の潜在意識は深くつながっているのです。地球外生命体やよこしまな気持ちを持つ創造主が、潜在意識を操作しようとする、彼女の体に異変が起こるのでわかります。

私達が、その場所に入っていくと地球外生命体達も驚いて動きを止めますが、私達と一緒に来たスター・ピープルや宇宙警備隊によってすぐにつかまってしまいました。

私達は更に、地球外生命体達を操っている存在が、人間の潜在意識の奥に隠れている事が分かりましたので、その中に入っていきます。

すると、そこで地球外生命体達を操っていたのは、今朝私達の前に現れた「光彩の創造主」の兄弟でした。

彼は「光彩の創造主」によって処理をされたはずですが、何故ここにいるのでしょうか。私は「光彩の創造主」を呼び出して、兄弟の創造主の事を尋ねました。

「TAKESHI さん、彼と話をしたのですが、彼は私達の話を理解する事が出来ませんでしたので光にかえしました。」

「光彩の創造主」は、私にこのように告げました。

私は、「それでは、これは誰ですか。」と「光彩の創造主」に告げます。

「光彩の創造主」の様な高次の創造主達は、直接物理世界に近い場所を見る事が出来ませんので、私や恵理さんを通して、物理世界に近い場所を見る事になります。

私の意識をとおして物理世界に近い場所をみた「光彩の創造主」が、「えっ！」と驚きの声を上げます。

「この「破壊の創造主」は、私達が光に帰したはずですが、何故ここにいるのでしょうか。」

「光彩の創造主」は一瞬パニックになったようでした。

私は、ロッド星人を呼んで意見を求めます。

ロッド星人は、この創造主のエネルギーを調べています。

「私達が見た限りでは、TAKESHIさん達が朝に会われて、「光彩の創造主」が光に返した「破壊の創造主」は、目の前にいる創造主の一部のようです。

目の前にいる創造主と朝に会われた創造主は、同じエネルギーを持っていますが、明らかにこちらの創造主のエネルギーの方が大きいので、こちらが本物だと思われれます。」

「すると私達は、この「破壊の創造主」にだまされていたという事ですか。

この創造主は光に帰ったと、私達に思わせておいて油断している間に、その本体が自分の計画を遂行していたという事ですか。」

「残念ながらその様な事になると思います。」

「光彩の創造主」は自分がだまされた事に怒っています。

私は、おそらくその様な事だろうと思ってい

ましたので、この創造主と話をしてみる事にしました。

「「破壊の創造主」よ、このような手の込んだ方法まで取って地球のアセンションに関わる理由はなんですか、教えてください。」人間の潜在意識の中に隠れた創造主は、先ほどのトリックで、私達に見つかる事なく自分の計画が進められると思っていたようですが、私達に見つかってしまい悔しい思いをしているようです。

「私は本来光の創造主を指導する立場の創造主ですが、多くの創造主は私の存在を無視していました。

私はいつも「光彩の創造主」と比べられ、彼には賞賛が与えられました、私には賞賛は与えられる事はありませんでした。

それどころか、私は、この地球のアセンションにとって邪魔な存在のようです。

私は、遠くの世界に飛ばされて、地球のアセンションには、関わらないようにと言われました。

しかし、私はその意見には、納得できませんので、「光彩の創造主」に恥をかかせてやろうと思い、この地球のアセンションを邪魔する事にしました。」

私は、光の創造主の世界では、よくこのような事が起こりますが、まさか「光彩の創造主」のラインでこのような事がおきるとは思ってもいませんでした。

「しかし「破壊の創造主」よ、あなたが地球のアセンションに関わらないように言われた事には理由があるはずですよ。

それはなぜだかわかりますか。」

創造主はふてくされたように言います。

「いえ、創造主は自らの独自性をもって宇宙

の創造を行うのです。

自分が作りたい宇宙を創る事が私達の使命です。」

「創造主よ、自分の独自性のある宇宙を作りたいのはわかりますが、宇宙の創造は責任を伴うものです。

あなたが宇宙を創造したとします。

その宇宙の中に人や生命が生まれてきますが、その一つ一つの物を尊重し大切にしていますか。」

「あなたは、私に何を言いたいのですか、創造されたものはすべて創造主の意思に従わなければなりませんので、それらを尊重する事も大切にすることも必要ありません。

気に入らなければ、壊してまた作り直せばよいだけです。」

やはり、この創造主も自分勝手な事しか考えていません。

「創造主よ、あなた自身がそのような身勝手にわがままな考え方をしているから、他の創造主があなたについてこないのではないですか。

あなたは、創造された宇宙を大切にしていないし、そこに生れてくる生命も尊重しようとしない、宇宙は自分にとって支配される為だけにあると考えているからこそ、あなたに宇宙の創造は任せられないと、上位の創造主が判断されたのではないですか。」

「いえ、上位の創造主は、「光彩の創造主」をえこひいきしているだけです。

彼こそ無能で力のない創造主です。

私が、地球と宇宙の支配をしたほうが良いという事を見せつけるために、私はやってきました。」

「光彩の創造主」はその言葉を聴いてムッと

していますが、確かに今朝、彼は見事に騙されましたので反論はできません。

私は、「破壊の創造主」を見据えて言います。

「私達が行っている地球のアセンションとは、一人一人の生命を大切に扱うために行っている事です。

生命をまるで物のように扱い、自分勝手に支配したいというあなたの考えとは正反対です。

あなたが地球に関わってきた事も、創造主としてあるまじき事です。地球の人々のネガティブな感情を利用してアセンションを邪魔する事は、光の創造主の意向に反する事です。

このまま、手を引いて自分の世界に帰ってください。」

創造主は怒り続けて、私達に怒りのエネルギーをぶつけてきました。

私は「神聖なる光の創造主」を呼び出します。

「「神聖なる光の創造主」よ、どうしてもこの創造主は、考えを変える様子はないようです。

出来ましたら、創造主としての資格と能力を全て剥奪して、地球に人として生まれ変わらせ、学びを行わせたらいかがでしょうか。」

「そうですね、私も 2 人の会話を聞いておりましたが、この創造主は、私達の忠告を無視して地球にやってきました。

そして、地球のアセンションを妨害しようとしたので、創造主としての資格を剥奪しようと思います。

創造主よ、地球に降りて人として生きてください。」



「神聖なる光の創造主」はそのように答え、この創造主から全ての能力と知識をはぎ取っています。

創造主はしばらく子供のように抵抗していたのですが、やがて光に吸い込まれるように消えていきました。彼の地球での学びが始まったようです。

「神聖なる光の創造主」はその様子を見て一言こぼしました。

「彼も創造主として成長できませんでした。でも、どうして彼が、あの世界から出てこれたのかしら。」

私は「神聖なる光の創造主」の一言葉が気になっていますが、この言葉は、後で大変な出来事を知るきっかけとなりました。

## PART2 変容した愛の女神

この創造主が、創造主としての力を失い、地上に降りた事で、彼の計画が明るみに出てきました。

それはまさに、地球のアセンションにたいして大変な危機をもたらすものでした。

私達が自宅に戻りかけた頃、またしても恵理さんを強烈な頭痛が襲います。

これは地球外生命体や私達に敵意を持つ創造主達が、自分達の計画を知られないようにするために、恵理さんの探査能力やビジョンを見る能力をマヒさせるために行われる事です。

確かに、この手の妨害電波は強力で恵理さんも頭を抱えて痛がっています。

しかし、私達はこのような電波を送ってきた存在達をすぐに逆探知して、どのような存在が何のために、私達に干渉してきたかをすぐに調べる事が出来ます。

特にピカフラッシュを仲間にしてからは、その探査能力は格段と早くなりました。

私達に妨害電波を送った存在も、その1分後には逆探知されて、私達に見つかり逮捕されるという事が起きているのです。

今回もそうでした。

私達に、自分達の計画がばれないように妨害電波を送っていた女神は、すぐに発見されました。

その女神をしらべてみると、異なる宇宙の「愛の女神」である事が分かりました。

しかし、彼女が行っている事は、地球人が持つ愛のエネルギーを奪い取り、代わりに憎しみのエネルギーを与える事でした。

そうする事で、地球人がお互い憎しみ合い、争ったり傷つけあったりする事を助長していたのです。

これは通常では考えられない事です。

おそらく誰かに操られているか命じられているために起こった事でしょう。

すぐに、この女神にコントロールコードが入れられていないかを調べてもらおうと、やはりありました。

私は、スター・ピープルにそのコードを外してもらい、誰が作ったコードか調べてもらいました。

やはり、紛れもなく先ほど地上に降りた「破壊の創造主」がつけたコードのようです。

「神聖なる光の創造主」を呼び出して、この「愛の女神」がどこからきたのか調べてもら

いました。

「TAKESHIさん、確かにこの女神は、皆さんの光の創造主の系列に属している創造主ではありません。

おそらく、「破壊の創造主」が送り込まれた世界の女神のようです。

私は、大切な事を調べに行ってきます。」  
とって「神聖なる光の創造主」は消えていきました。

コントロールコードを外された「愛の女神」は、正常な意識を取り戻したようです。

「ここは、一体どこでしょうか、私はここで、何をしていますのですか。」

「愛の女神」は、自分が見知らぬ場所において、知らないスター・ピープル達に取り囲まれているのを大変驚いています。

アシュタールのエレナさんが、彼女に寄り添うようにして説明しています。

「女神よ、ここは地球と呼ばれ天の川銀河の星の一つです。

「神聖なる光の創造主」が言われる事には、あなた方は、私達の宇宙とは全く異なる宇宙の方のようです。

あなたは、ある創造主に騙されて意識をコントロールされ、この地球に連れてこられました。

そして地球に生きる人々の愛のエネルギーを奪い、憎しみの感情を抱かせて、地球の人々に争いを起こさせていたのです。」

女神はエレナさんの言葉に驚いています。自分は愛の女神だから、その様な事をするはずはないと言い張っていますが、地球で起こっていた事を振り返って見せてあげたところ、自分が本来行うべきでない事を行っている姿を見て愕然としています。

「私は一体なぜこのような事をしたのでしょうか、  
私は皆さんに取り返しが見つからない事をしてしまいました。  
本当にごめんなさい。」  
女神は両手で自分の顔を覆い泣き出してしまいました。

エシナさんはそのような女神を慰めるように言いました。

「これはあなたのせいではないのです。  
あなたは、まちがえた考え方をしていた創造主に利用されていただけです。  
よかったら、あなたが覚えている事を私達に教えてくれませんか。」

「愛の女神」は、目に涙を浮かべながら話し始めました。

「私達の宇宙は、他の宇宙にくらべるとまだ生まれてからそれほど長い時間が経っていない宇宙です。

創造主達も、経験が浅く試行錯誤を繰り返していました。

しかし、私達はいつも楽しく喜びをもって宇宙を創造していたのです。」

彼女は、まだはっきりしない意識で記憶の糸を手繰り寄せています。

「そして、しばらく前に一人の偉大な創造主様が、突然私達の世界にやってこられました。創造主様は、自分達の宇宙だけでなく他の宇宙や様々な世界の事を良く知っている創造主さまで、私達が持っていない力をたくさんお持ちでした。

創造主様は、私達は、まだ未熟な創造主だから、私達を一人前の創造主にするために来たといわれました。

私達は、偉大な創造主様に素晴らしい力をい

ただき多くの事を学ばせて頂きました。」  
「愛の女神」はしばらく言葉を止めます。  
ところどころ記憶が失われているようです。

「そして、私達にたしか、このように言われたと思います。

これから大きな宇宙を支配する為に、私達をどこかに連れて行かなければならないと、私達の仲間のひとりが、自分達の宇宙から外に出るのは望まないと、言ったような気がします。

それから、、、それから、、、私は、そのあとの記憶がなく、今ここにいるのです。」

私は、とても大きな不安に襲われます。  
ロッド星人もエレナさんも私と同じ事を考えたようです。

「彼女の仲間の創造主を急いで探しましょう。」

私は、光の創造主、創造主警備隊、地球警備隊、宇宙警備隊を呼び出します。

そして、「愛の女神」につけられていたネガティブコードの波長を使って、彼女が来た世界の創造主達を探し出す事にしました。

ネガティブコードは同じ波長を持っていますから、ピカフラッシュにその波長を覚えてもらい、その波長をもつネガティブコードを全て探し出します。

もちろん、そのコードは、「愛の女神」が属する宇宙の創造主達につけられていると思われるので、ピカフラッシュが創造主達を発見したら、光の創造主と各警備隊で捕まえてもらいます。

エレナさんもアシュタールのメンバーに応援をもらい、地球を周回している宇宙船や別の次元に隠されている宇宙船や基地の探索

に入ったようです。

ピカフラッシュが、たくさんに分かれ一斉に走り始めました。

警備隊もそのあとを急いで追います。

警備隊にはあらかじめピカフラッシュの波長を覚えさせていますので、見失ってもすぐにわかります。

「愛の女神」につけられているコントロールコードに組み込まれているプログラムの分析を、ロッド星人がはじめています。

それによって、「破壊の創造主」が最終的に何をしたかったのかを調べる事が出来ます。

しばらくするとどこかに出かけていた「神聖なる光の創造主」が心配そうな顔をして戻ってきました。

「TAKESHIさん、大変な事になっていました。

あの創造主を閉じ込めておいた宇宙を見にいったら、多くの創造主が姿を消していました。

一体どうしたというのでしょうか、あの創造主は一体何を企んでいたのでしょうか。」

コントロールコードを調べていたロッド星人がコードを片手に答えます。

「地球がアセンションしたときに、その世界を奪い取る事です。」

### PART3 アセンション後の地球が奪われる危機

その場にいた全ての創造主とスター・ピープル達が凍りつきました。

「あのコントロールコードを調べた結果、

「破壊の創造主」は、自分が隔離された宇宙の創造主の全てをコントロールしていたようです。

そして、私達の戦力やスター・ピープル達の数、創造主の数などを徹底的に調べていました。

そして、元いた宇宙の創造主達にコントロールコードをつけて支配を行い、彼等を全て引き連れてこの地球に入ってきたのです。

創造主達はすべて、光の創造主に対する対抗策とパワーを与えてありましたので、とても強力な創造主集団となっていました。

彼等の目的は、地球がアセンションした瞬間を狙って、光の地球を自分達の世界に繋ぐ事です。

そうすれば、アセンションを通じて簡単に光の地球を手に入れる事が出来ます。

その為に、光の創造主と同じ配置に、別の宇宙の創造主達を配置したようです。

しかし、不思議な事は、この計画を実行する為には、「神聖なる光の創造主」を上回る力を持った創造主がいなくては、計画は実行できないはずですが、、、とロッド星人は口をつぐんでしまいました。

「神聖なる光の創造主」も「光彩の創造主」も、自分達の知らない所でその様な計画が進められていた事に不安な気持ちになっています。

その時、警備隊達が別の世界の創造主達を捕えて、一人、また一人と戻ってきました。

「神聖なる光の創造主」が、その様子を見て驚いています。

「創造主よ、このような事もあろうかとネガティブコードの波長を調べ、同じ波長をもつコードを付けられた創造主達を捜しています。

もう少しすると、全員集まるのではないかと思います。」

と私が答えると、「神聖なる光の創造主」も「光彩の創造主」も安堵の溜息をついています。

連れて来られた創造主達は、背中や後頭部につけられたネガティブコードを次々と外されていっています。

皆さん、コードが外れると、自分がなぜここにいるのか理解できないような顔をしています。

先ほどの「愛の女神」は、連れてこられた創造主のもとに駆け寄り、自分達がだまされていた事を伝えています。

私は、この宇宙の創造主達に謝罪を行わなければなりません。

「善良なる創造主達よ、あなた方はとても誠実に宇宙の創造を行い、宇宙のために働いていました。

しかし、あなた方の宇宙にやってきた偽りの創造主によってあなた方はだまされ、ネガティブコードを入れられてコントロールされていました。

そしてこの地球と呼ばれる星に連れてこられて、アセンションした世界をだまし取る計画に加担させられていたのです。

幸いな事に、皆さんをだました創造主の悪事がばれて、彼は創造主としての資格を剥奪され、地球の人間として生まれ変わりましたので、もうここにはいません。

もちろん、皆さんにも影響を与える事はできません。」

善良なる創造主からは、安堵の声や怒りの声が聞こえてきます。



「皆さんがお怒りの事もよくわかります。皆さんは、コントロールコードを入れられ、地球を乗っ取るために利用されようとしたのですから。しかし、この事は無事に回避されましたので、心配はありません。そして、皆さんをコントロールしていたコードも取りましたので、皆さんは今迄のように善良な創造主に戻る事が出来ました。今回の事は、私やこの宇宙の創造主から、深く皆さんにお詫び申し上げます。」  
と、私は創造主達に謝罪しました。

善良なる創造主達のリーダーは謝罪する私達を気遣うように答えます。

「いえ、私達こそ、未だ心に大きな隙があったのです。

今回は皆さんに救っていただきまして本当にありがとうございます。

まだ私達は、十分な経験を積んではいない未熟な創造主の集まりですので、今回の事は大変大きな学びとなりました。

皆さんの誠意あるご協力に感謝したいと思います。

それでは、私達は自分達の宇宙に帰りたいと思います。」

仲間の創造主達は立ち上がり、彼のもとに集まってきました。

「皆さん、ご理解いただきありがとうございます。

「神聖なる光の創造主」と「光彩の創造主」に、皆さんの宇宙まで送らせますので、これからも素晴らしい宇宙を創造してください。」  
善良なる創造主達は、心をひとつにして答えます。

「ありがとうございます。  
皆さんも素晴らしいアセンションをお迎え

になられてください。」

「神聖なる光の創造主」と「光彩の創造主」は、善良なる創造主達をともなって、宇宙へ旅立っていきました。

## 第3章 「創造主に試練を与える創造主」のたくらみ

### PART1 「全ての創造主に試練を与える創造主」への疑惑

善良なる創造主が自分達の宇宙に帰ってこれで終わりかと思っていたら、「破壊の創造主」が仕組んだ罠はこれだけではありませんでした。

私達がいる場所の近くから大きな黒い渦巻が沸き起こり、私達に対して攻撃的なエネルギーを送っています。

すぐに調べると、この渦巻の中にいたのは、通常は地球人を守護するはずの大天使達です。

これには、私達も驚きました。

いつもは私達と共に活躍している天使達が、いつの間にか私達の活動を邪魔するように仕向けられているのです。

私達はすぐに高次元の大天使達を呼び出しました。

高次元の大天使達は、守護天使達の様子を見てすぐにおかしいと気づいたようです。

守護天使達の動きを止めて調べています。

するとやはり、彼等にもコントロールチップがつけられ操られていました。

おそらく、あの創造主が計画を発動した時に、この黒い渦巻を作っていた守護天使達が、私達の視界を遮り、世界を見えなくしておいて、あの創造主と善良なる創造主がアセンションしていく地球を自分の世界につなげなおすという計画だったようです。

計画の張本人である創造主がいなくなり、計画が中途半端になったので、善良なる創造主が表に現れたタイミングで守護天使達も出てきたのかもしれませんが。

高次元の大天使達の働きで、守護天使達はすぐに元に戻り、自分達の世界に戻っていきました。

しかし、この様子を見ていたロッド星人が、いぶかしげな顔をしています。

「TAKESHIさん、これは、「破壊の創造主」だけの計画ではないように思えます。

もっと力を持っている創造主が本格的に地球のアセンションをひっくり返す事を目的として仕組んだ罠のような気がするのです。」

「私もそう思います。

あなたは、先ほど「神聖なる光の創造主」よりも力を持った創造主が関わっている可能性がある事を示唆していましたね。

私もそうではないかと思っているのです。」

もちろん私達が怪しいと考えているのは「全ての創造主に試練を与える創造主」の事です。私達はいくつものトラブルが起こるたびに、その原因を調べていたのですが、ときおりこの創造主が仕組んだと思われる事があります。

私達が、その事を「全ての創造主に試練を与える創造主」に問いただすと、これは創造主を鍛えるための試練だから、という返事で終わってしまいます。

光の創造主を立て直す時点でも、この創造主と同じように、自分よりも下の創造主に対して試練を与える創造主が数名存在していましたが、彼らは突き止めていくと、自分の支配欲やエゴによって他の創造主や地球を支

配しようとしていた事がありました。

私達は、その事を調べ上げ、これらの創造主を地上に降ろした事が何度もありましたが、また同じような事が起こっているのでしょうか。

私は心配になって、「神聖なる光の創造主」や「光彩の創造主」に「全ての創造主に試練を与える創造主」の事を聞いた事があります。彼等は、私の疑問に答えるときは、「全ての創造主に試練を与える創造主」は良い創造主だし、自分達も彼に育てられる事によって立派な創造主になる事が出来たと、答えてくれます。

私はその言葉を信賴して、「全ての創造主に試練を与える創造主」の試練を解決してきたのですが、今回の計画に関しては、ちょっと気になります。

私は、「全ての創造主に試練を与える創造主」を呼び出して来ていただきました。

「神聖なる光の創造主」も「光彩の創造主」も一緒に現れました。

「偉大なる「全ての創造主に試練を与える創造主」よ、今回「光彩の創造主」の兄弟である「破壊の創造主」が地球のアセンションを妨害する計画を立てていましたが、この事に対してあなたにもお聞きしたい事がありますがよろしいでしょうか。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」は、私達の前に立ちつくすようにして答えます。

「あなたが言いたい事は分かっています。これが、あなた方に対する試練であるか、ないかという事ですね。

答えは、これは試練であり学びであるという

事です。

特に、「光彩の創造主」に対する試練の要素は大きかったと思いますが、彼はそれを単独で乗り切る事が出来ませんでした。

皆さんの力によって、うまく解決したようですが、」

「光彩の創造主」は、その言葉を聴いて悔しさをかみしめているようです。

「全ての創造主に試練を与える創造主」よ、それでは、あの創造主を閉じ込められていた世界から解き放ったのも、あのような計画を裏で練ったのもあなたではないのですか。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」は少し涼しい顔をして答えます。

「それが皆さんの生長にとって必要な事だったからです。」

「しかし、今回の事はもしあの創造主が裏で行っている事に、私達が気付かなければ、地球のアセンションは大きく道を踏み外すところでした。

あまりにも危険すぎる試練だとは思いませんか。」

「このくらいの試練は、あなたにとっては当たり前です。

あなたは、通常の創造主ではなく、創造主のリーダーになって貰わなければならない方ですので、しっかりと超えて行ってください。もし、あなたが失敗しても、私はすぐにこの計画を止める事はできますので、地球のアセンションには影響しないでしょう。」

私は、「全ての創造主に試練を与える創造主」に対する信頼が揺らいでくる事を感じています。

「私は、私の成長のために、多くの宇宙や創造主、スター・ピープル達を犠牲にしてもかまわないというあなたの考え方自体がおかしいと思っています。

今回現れた創造主もそうです。

あなた方は、創造された宇宙やそこに生きる人々を大切に尊重していませんし、自分の意思に従わない者は、認めないという考えです。更には、創造された者達がどのようになろうとも、一切考慮する事はしません。

これが創造主としての考え方、やり方ですか。それは間違えていませんか。」

私の怒りに「光彩の創造主」は、私と「全ての創造主に試練を与える創造主」のやり取りがどうなるのだろうと心配しているようです。

「それでは、TAKESHI さんにも、お聞きしますが、あなたもアセンションにともなって、不要な地球外生命体達をたくさん光にかえしましたが、これも私達と同じ考え方ではないのですか。

あなた自身も創造主である以上、他の存在の生命を奪う事を行っていますが、それを当たり前と考えるてはいませんか。」

私達の間には長い沈黙が流れます。

確かに最近、私自身もこの事に関して悩み始めていた所でしたので、痛いところを突かれた、という気がします。

そこにロッド星人が、言葉をはさみます。

「全ての創造主に試練を与える創造主」よ、私も長い間、生きてきて多くの創造主達を見てきました。

TAKESHI さんが言われるように、創造主達のエゴや身勝手さによって、多くの宇宙が壊

され、多くのスター・ピープル達が闇に葬られてきた歴史を、私達はつぶさに見てきたのです。

しかし、TAKESHIさんは、他の創造主と違って、自分のエゴや身勝手さから他の存在を光にかえしている訳ではありません。

地球のアセンションという光の創造主や宇宙全体の意思によって行われている計画を代行しているにすぎないのです。

彼は常に真摯で実直な創造主です。

私達は、TAKESHIさんが言われように、たとえ創造主に対する試練であったとしても、創造された宇宙やそこに生きる人々を犠牲にすべきではないと考えます。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」の顔が怒りに満ちて、大変恐ろしい形相に変わります。

私はこのままでは、大きな危険が生じると思い、さらに上の創造主を呼び出す事にしました。

## PART2 「独自の創造性をはぐくむ創造主」の判断

私達が、さらに上位の創造主を呼び出すと、とても明るく屈託のない表情をした創造主様が現れます。

まるでなんの悩みもないような純真な気持ちを持った創造主様です。

言葉は悪いのですか、どこか脳天気な感じがする創造主様です。

「どうしましたか、何か問題がおきましたか。」と「全ての創造主に試練を与える創造



主」に聴いています。

「全ての創造主に試練を与える創造主」は、上位の創造主様が現れると、瞬時にその姿とエネルギーを変えます。

その変貌ぶりに、私達は全員驚いています。

「いえ、創造主様、何も問題は起きておりません。

全ては順調に行っておりますので、ご心配なくお過ごしください。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」が、「独自の創造性をはぐくむ創造主」に媚を売るような言い方をしている事にも驚きました。

「独自の創造性をはぐくむ創造主」は緊張したままの私達と「全ての創造主に試練を与える創造主」を見比べながら、一体何が起きたのか考えています。

「あなた方は、地球のアセンションに関わっている TAKESHI さんとスター・ピープル達ですか。」

私達はうなずいてこたえます。

「偉大なる創造主様、私達は地球のアセンションを行っている者です。」

「そうですか、本当にご苦労さまです。

「全ての創造主に試練を与える創造主」の報告では、もうすぐアセンションを迎えるようですね、

何事もなくスムーズに事は進んでいると、報告を受けていますので、私も安心しているところです。」

私はロッド星人やエレナさんと顔を見合わせます。

「偉大なる創造主は、今地球のアセンション

は、何事もなくスムーズに進んでいるとおっしゃられましたか。」

私は、最上位の創造主に聞き返しました。

「全ての創造主に試練を与える創造主」が、最上位の創造主にむかってにっこりと笑っています。

「この者達は、地球のアセンションの功労者達です。

一度、最上位の創造主様に、お目にかかりたいというものですから、ここに連れてきました。

もうすぐ地球のアセンションも終わりますので、この者達も励みとなるでしょう。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」は上位の創造主に、自分の世界に戻るように即しています。

私は、最上位の創造主に向かって叫びました。

「地球のアセンションは、大変な状態です。トラブル続きで困っているのです。どうか私達の話をお聴いてください。」

一度は私達に背を向けて帰ろうとした創造主が、異変に気づき私達の方を振り返りました。

「一体何が起きたというのですか。話してみてください。」

私は、「独自の創造性をはぐくむ創造主」に向かって頭を下げ話し始めます。

「地球だけでなく私達の宇宙は、支配欲に満ち溢れた創造主や気が狂った創造主達によって大変な状態になっています。

いくつもの宇宙は破壊され、叡智あるスター・ピープル達は闇に落とされ、多くの生命が創造主達によって無駄に殺されています。このような宇宙では地球のアセンションも

成功しないかもしれませんが。

成功したとしても、これからも大変な事を人々は経験しなければならないのです。」

私の言葉に驚いた創造主は、「全ての創造主に試練を与える創造主」にむかっていいます。

「あなたの報告には、彼が言っているような事は一切書かれていませんが、どちらが正しいのですか。」

「はい、どちらとも言い難いのですが、、、」と彼は言葉を濁しています。

私は創造主に向かって、恵理さんの記憶をとおして、この地球と宇宙に起きた事を見てもらえるように最上位の創造主に向かってお願いしました。

恵理さんは、特別な記憶の回路を持っており、コンピューターのように、自分が見た事を記録し再生する事が出来ます。

彼女のこの機能に関しては、誰も変更が出来ないようになっているようです。

創造主は、恵理さんを通して、地球と宇宙に起きている事、地球のアセンションを巡る創造主達の暴挙をつぶさに見ています。

特に「狂気の創造主」や「根源の闇の創造主」達が行った事、グレシャッド星人や幾多ものディセンションした地球外生命達が行った事を見えています。

次第に創造主の顔が険しくなり、彼のエネルギーが緊張してきます。

「全ての創造主に試練を与える創造主」は、自分が隠していた事がすべて明るみになる事で、どのような処罰が行われるか恐れているようです。

最上位の創造主が、重々しく口を開きます。

「全ての創造主に試練を与える創造主」よ、あなたは、私に虚偽の報告をしていた、という事ですか。

その理由はなんですか。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」は身を小さくして答えます。

「いえ、決して虚偽の報告というわけではありません。

創造主様にご負担をかける事なくアセンションをやり遂げたいと思い、私の責任ですべてを行っていました。」

「それでは、このアセンション間近の時期に、あの荒くれ者の創造主を再び地球に解き放ったり、「狂気の創造主」を、これほど長い間放置していた理由はなんですか、あなた自身がこの宇宙を混乱に導き、アセンションを危うくしているとしか、私には思えません。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」は言葉を失って苦々しい顔をしています。

最上位の創造主は、私達の方を向き直ります。

「TAKESHIさん、そしてスター・ピープルの皆さん、改めてご挨拶いたしましょう。

私は、全ての宇宙の創造に関わる創造主で「独自の創造性を育む創造主」と呼ばれております。

「神聖なる光の創造主」や「光彩の創造主」も私のエネルギーから生まれてきておりますので、TAKESHIさんも、私の直系の創造主になれるのではと思いますので、これからはよろしくお願いします。

さて、恵理さんを通じて見せてもらった記憶には間違いがないようです。

私は「全ての創造主に試練を与える創造主」にだまされていたようです。

彼がてっきり素晴らしい宇宙を創造して、多くの者達を愛と喜びの世界に導いているとばかり思いました。

地球のアセンションについても、全ての人達が新しい次元へ導かれると聞いていましたが、真実は正反対のようですね。

ここまで地球と宇宙が混乱し、大変な状況になっているとは思いませんでした。

本当に申し訳なく思います。

これからは、私自らが創造主達と光をつなぎ、創造主達と多くの宇宙を見守る事にしましょう。

どうか、私の仕事を手伝ってください。」

「神聖なる光の創造主」も「光彩の創造主」も、私達と共に立ち上がって、「独自の創造性を育む創造主」にうなずいています。

### PART3 「全ての創造主に試練を与える創造主」の没落

自分が創造していた宇宙を「全ての創造主に試練を与える創造主」に任せていた事で、自分の考えとは全く異なる宇宙になってしまっていた事にたいして「独自の創造性を育む創造主」は、大きなショックを受け、創造主一人一人に自分の光をつなぎ創造主達を見守る事となりました。

そして、全ての創造主に光をつなげたところで、また一つ問題が発覚しました。

「全ての創造主に試練を与える創造主」は、自分以外の創造主に対して、コントロールコードをつけて操っていた事が判明したのです。

他の創造主をコントロールするという事は、創造主としてあるまじき行為です。

彼は、このコードによって創造主達に幻影を見せ、自分が行っている事がさも正しいかのようにみせていたのです。

私が以前、「神聖なる光の創造主」に「全ての創造主に試練を与える創造主」の事を尋ねた時も、このコントロールコードによって、「全ての創造主に試練を与える創造主」が素晴らしい創造主であるかのように思わせていたのです。

このコードを全ての創造主につけていた事を聞いた「神聖なる光の創造主」は、怒りまくっています。

さすがに、「独自の創造性を育む創造主」も、この事は許せなかったようです。

「全ての創造主に試練を与える創造主」は謹慎処分となり、私達の宇宙には一切関わる事を許されなくなりました。

しかし、問題はここでは終わりませんでした。私達は、ある朝、自分達の時間に何か操作が加えられたような夢を見ました。

すぐに「宇宙の時間軸」に問題が起きたのではないかと、その場所に急行しました。

管理人を呼び出して調べると、謹慎中の「全ての創造主に試練を与える創造主」が、時間軸を操作した形跡が残っています。

ここは、前回の事件以来セキュリティを高め、誰かが時間軸を操作しようとした時点で警報が鳴るように仕掛けてあります。

警報が鳴ると管理人や私達も気づきますので、すぐに操作を止めたり元に戻す事も可能です。

今回も、管理人が気づき、不法に操作された

時間軸は修正してあるようです。

私は、「独自の創造性を育む創造主」にこの事を報告してから、「全ての創造主に試練を与える創造主」を時間軸のもとに呼び出しました。

2人がついたところで、「全ての創造主に試練を与える創造主」に問いただします。

「あなたは、この宇宙の時間軸を動かそうとしたようですが、それはなぜですか。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」は気まずそうに答えます。

「私は、全ての創造主にコントロールコードをつけてしまいましたので、時間を少し前に戻し、そのコードを取り去ろうと思って行いました。」

「独自の創造性を育む創造主」は、その答えに怒っています。

「あなたは、全ての光の創造主にそのような事をおきながら、その過ちを隠すために、時間軸を操作しようとしたのですか、それは許せない事です。

もっと深く反省したほうが良いでしょう。」

「独自の創造性を育む創造主」は、「全ての創造主に試練を与える創造主」に対して、創造主としての資格を剥奪して、地球に降り立ち人として生きる事を命じました。

「全ての創造主に試練を与える創造主」は、その命令に大きなショックを受け、すぐるような気持ちで「独自の創造性を育む創造主」にお願いしています。

「創造主よ、私は今迄、創造主として生きてきました。

それ以外の人生を歩む事など考えられませ

ん。

どうかその事だけはお許してください。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」は、人として地球に降ろされる事を一番恐れていたようですが、自らの過ちに気づき反省する事をしなかったために、地球に降ろされていく事となりました。

「全ての創造主に試練を与える創造主」の悲鳴が、やがて私達から遠ざかり、彼は人として生きる事になりました。

#### PART4 「人の体と心とスピリットを統合する創造主」の完全復活

「全ての創造主に試練を与える創造主」が、地球に降ろされた事で、彼から制限を受けていた創造主達もすべて自由になりました。特に、彼と同じラインにいた「物理世界とスピリチュアルな世界のバランスをとる創造主」も彼の制限を受けていたようで、地球の物理次元に降ろしている「人の体と心とスピリットを統合する創造主」の働きをすぐにも復活させるようです。

「物理世界とスピリチュアルな世界のバランスをとる創造主」は、この「人の体と心とスピリットを統合する創造主」につながっている4つの側面の創造主をすぐに目覚めさせる事にしたようです。

この「人の体と心とスピリットを統合する創造主」の4つの側面は、まさに高次の創造主達であり、その創造主が物理世界の間人達に影響を及ぼすために、地球の物理次元の近くにこの創造主を生みだしたようです。



その高次の創造主の一人は、紛れもなく「物理世界とスピリチュアルな世界のバランスをとる創造主」です。

そして残りの 3 人の創造主は「スピリットを適正に働かせるための創造主」、「人を適正な場所に送り込む創造主」、「人の生命を守り適正な学びを与える創造主」です。

これらの創造主は、物理世界とスピリチュアルな世界のバランスをとる創造主と同じ位置にいる創造主ですが、「全ての創造主に試練を与える創造主」によって封印されていたので、今迄働く事が出来ませんでした。

しかし、「全ての創造主に試練を与える創造主」が、創造主としての資格を奪われ、地球に降りた事で、封印されていた 3 人の創造主達も目覚め、「人の体と心とスピリットを統合する創造主」をとおして物理的な世界の人々に働きかける事が出来るようになります。

「物理世界とスピリチュアルな世界のバランスをとる創造主」が私達に説明を行ってくれます。

「今まで、この創造主の力は闇の中に閉ざされ、人々は自分の体と心、そしてスピリットの分離を体験してきました。

人々は、自分の心を深く知る事が出来ず、スピリットの声を聴く事も出来ませんでした。その為に、地球の人々は、自分達が地球に生きてきた目的や役割を知る事もなく、ただ生きていくのみでした。

人々は、自分のスピリットと切り離されていたために、適切な学びと成長を行う事が出来ませんでした。

しかも、その分離は、地球外生命体達によって利用され、地球人は彼等によって心身を奪い取られ支配されていました。

私達はこの事も地球人の学びだと思っていたのですが、それは「全ての創造主に試練を与える創造主」によってあたえられていた幻想だったようです。

私達は、「人の体と心とスピリットを統合する創造主」の働きを完全に復活させ、私達4人の高次の創造主の力を地球人やスター・ピープル達に作用させていきたいと思っています。

それによって、肉体と心そしてスピリットの統合を果たしていない地球人やスター・ピープル達は、この事を少しずつ実現し、自分の本当の姿に目覚めていく事でしょう。

そして自分達の役割や目的をしっかりと認識して、意識の進化を行っていく事でしょう。

これからアセンションを目指す地球人は、いち早く肉体と意識、スピリットの統合を図らなければなりません。

そして、今迄の世界が、巧妙に作られた幻想である事に気づき、自分本来の世界を作りあげていかなければなりません。

アセンション後の世界は、まさにこのような統合を迎えた人々によって作り上げられる世界となる事でしょう。」

私は以前、ロッド星人達が心配していた事を尋ねてみました。

「創造主よ、私達は以前、この「人の体と心とスピリットを統合する創造主」を見つけたときに、彼が完全に復活してしまえば、肉体をもって現実世界に生きている人が突然スピリットの記憶を思い出してパニックになってしまう可能性があるのではないかと考

えていましたが、それはどうでしょうか。」  
「物理世界とスピリチュアルな世界のバランスをとる創造主」はにっこりと笑って答えます。

「それも、彼が作り出していた幻想のようです。

人が現実世界で生きている場合は、「スピリットを適正に働かせるための創造主」によって、どのような経験や知識を、どのようなタイミングで目覚めさせるかという事が、綿密に計画され実行されますので、不意に予測もしない過去の映像や経験に触れる事はありません。

また「人の生命を守り適正な学びを与える創造主」によって、人々は安全な状態で計画的に学ばされていきますので、地球外生命体によって操作される事もあります。

その結果、人々に最適な状態で最高の学びが与えられ成長への道筋がつけられていく事になります。

「全ての創造主に試練を与える創造主」は、これらの創造主を封印する事によって、地球人を地球外生命体の餌食にして、地球外生命体達と共に地球を支配しようとしていた事が分かりましたし、地球人に適正な学びを与えず光を奪い続ける事で、地球人の進化を遅らせ、宇宙そのもののアセンションを送らせていたのです。

全て彼が、自分にとって都合がよい世界を作りあげて、いつまでも創造主や人々に試練という名前の支配を行いたかったために起きていた事です。

私達は、今迄の過ちを繰り返す事なく、全力で地球と宇宙の人々にとって、より良い状態

を作りあげるために努力を行います。  
これも、皆さんがいてくださったからこそできた事です。  
本当にありがとうございました。」

そう言って「物理世界とスピリチュアルな世界のバランスをとる創造主」は消えていきました、これから少しの時間の余裕もなく彼等は働き続ける事でしょう。

この事によって、地球のアセンションは今までにない大きな一歩を踏み出した事になります。

予定されているファースト・コンタクトまで、もう残り 1 か月です。

この 1 か月をどのように生きるか当いう事で地球の人達の未来が大きく変わるようです。

地球の幻想のベールがどんどん取り外されていきます。

地球人はこれから本当の自分を見始める事でしょう。

## 第4章 愛の度合いとアセン ション

### PART1 愛の度合いとアセンション

私達の地球は、2016年の8月末をめぐりにほとんどの分離が終了するようです。

それは地球に生きる人々にとっても、自分が望むべき世界に行くという事を意味しています。

それが、たとえアセンションする世界でなかったとしても、スピリットにとっては必要な学びの世界に行く事になるので決して悪い事ではありません。

私は、このアセンションする世界に行くのか、異なる世界に行くのか、どこで見分けるのだろうかという疑問に思っていたのですが、先日ようやく教えていただきました。

それは「アミ小さな宇宙人」で書かれたような「愛の度数」を図る機械をスター・ピープル達は持っているようです。

そしてその人の「愛の度数」を計測して、それを宇宙のスーパーコンピューターに送り、様々な要因と兼ね合わせて、その人が行くべき世界を決めるようです。

そして、この「愛の度数」に応じて、アセンションの段階も決まるようです。

地球は今回、第一次アセンションを迎えますが、この第一次アセンションを迎えられる人々の愛の基準は700だそうです。

現在の地球人の平均は600から650ですから、地球人全員が第一次アセンションを迎

えるには到底足りない数字です。

そのために、700 に近い数字の人達を選んで第一次アセンションさせていくようです。この700 という数字は、「宇宙の愛」の第1 ステージに対応します。

「宇宙の愛」については白鳥座のギユナ星人が詳しく書いてありますが、「同じ地球に生きる人を分け隔てなく愛する事が出来る人」になる事です。

今の地球では、光りも闇も混在しているので難しいかもしれませんが、これから自分が行く世界の人達を愛する事が出来るようになる事が大事です。

私達が、「宇宙の愛」の第1 ステージを理解し、それに向けて努力するようになれば、私達の愛の度数は、700 に向けて上昇していく事でしょう。

そして700 を超えた人が、正式に第一次アセンションを迎える事になります。

地球では、おそらく700 を超える人は、全体の1 割位しかいないと思われませんが、それでも第一次アセンションは、何とか成功するようです。

そしてスター・ピープル達から教えてもらった事は、アセンションは一度だけでなく、愛の度合いに応じて何度でも起こるという事です。

愛の度合いが高くなるという事は、それだけ精神性が高まるという事なので、スター・ピープルとして進化していき、天の川銀河の重要な役目を任される事になります。

愛の度数が800 になると、第2次アセンションが起こります。

これは、「宇宙の愛」の第2ステージに対応

します。

この第2ステージは、「宇宙の愛」の中でも、同じ種族の人間だけでなく、宇宙の他の種族や生命を愛する事が出来るという意識状態になる必要があります。

「アミ小さな宇宙人」のモデルとなったブラドエル星人も、種族としてはすでに800を超えて第2次アセンションを終了していませんので、単独で地球や様々な星に、発展途上の人達をサポートしに行く事が出来ます。ただしアミ自身は、地球人のペドゥリートと会った時は、まだ若くブラドエル星人の平均的な愛の度数には至ってはいない750程度でした。

しかし、それから様々な経験を積んで現在では、ブラッド星人の平均値である850まで度数があがっているようです。

本来は、この第2次アセンションを終わってからが、本当のスター・ピープルとして、宇宙の中で活躍できる立場になります。

第一次アセンションを終えたばかりですと自分達の種族は愛する事が出来ますが、自分達の種族と大きく異なる姿や能力を持った異星人に対して恐れや違和感を持ってしまい、相手の立場になって考える事が出来ないのです。その星の人々を十分にサポートする事が出来ません。

この段階の人は、第2次アセンションを終えたスター・ピープル達の仕事をお手伝いする見習いスター・ピープルです。

また、第2次アセンションを終えて、天の川銀河の人々に大きく貢献した人は更に愛の度数が高まり900を超えてきます。

900を超えると第3次アセンションへと向かいます。

今回の地球のアセンションを中心的な立場で支えているスター・ピープルは、第2次アセンションから第3次アセンションへと向かう人々ですので、地球の第一次アセンションが無事終了すると、第3次アセンションを達成する人もいます。

今回地球の第1次アセンションは、ただ一つの星がアセンションしていく事とは、まったく異なる重要な問題をたくさん含んでいますので、さらに高いレベルにいるスター・ピープル達も関わっています。

天の川銀河の最高レベルにいるのは、おそらくエリシタール星人で、第7次アセンションを終えているようです。

ここまで来ると、通常のスター・ピープルにとっては伝説の神クラスのスター・ピープルですので、今回一緒に働いているスター・ピープルは、彼等に会えただけでも幸運に思っている者達もたくさんいます。

もちろん、天の川銀河を超えた宇宙には、さらに高い次元にあるスター・ピープルもいます。

スター・ピープル達は、半物質体ですので、自分達の意識が高まれば、高まるほど長く生きる事が出来ます。

私達の現在の寿命は80歳～90歳くらいですが、第1次アセンションを終わるとおそらく200歳から300歳くらいまでは伸びるのではないかと思います。

第2次アセンションを終えたスター・ピープル達に聴いてみると、だいたい1000歳くらいまでは生きようになるようです。

おそらく、愛の度数が上がり、自分達のアセンションが進んでいくと、完全なスピリット



体となり、物質的な肉体を持たなくなるので、自分達が生きる年齢も自由になるようです。私達と共に、働いている最高次元のスター・ピープルは、1億歳をすでに超えているとっていました。

もう彼等には、時間の制約は全くないようです。

私達も第1次アセンションが終わると、自分達の肉体に大きな変化を迎えるようです。

肉体やスピリットの調整を行っているスター・ピープルは、現在私の体やスピリットの調整に大忙しです。

これから、私達は様々な星のスター・ピープル達と会う事になるので、今のままでは上手にコミュニケーションをとる事が出来ないようです。

私達の意識と肉体の遺伝子を調整して、ファースト・コンタクトやその後のアセンションに備えているようです。

現実的にも、この2か月ほとんど牛肉や豚肉を食べませんし、鶏肉も少なくなってきました。食事の量も昔の半分くらいです。

これは、スター・ピープルの中には、牛や豚のような地球で言う哺乳類を起源としているスター・ピープル達もたくさんいて、彼らは私達が動物の肉を食べる事を、決して良くは思っていないからです。

確かに、自分と同じ種族を日常的に食べている人とは安心して話が出来ないですね。

私達が知る最高次元にいる種族は、少し形は異なりますが、地球で言えば魚のような種族から、10回もアセンションを繰り返して、今のスター・ピープルになったとっていました。

決して動物に似た種族だから、魚のような種

族だからと言って、私達よりも進化していないという事は一切ないようです。

このように相手の種族を尊敬して、自分の食事の形態を変える事も、自分自身の愛の度数を上げる事に大きく関係しているようです。

## PART2 「宇宙の愛」へと至る道

私達地球人が、「宇宙の愛」についてあまり理解していないので、エレナさん達は、白鳥座からギユナ星人に来てもらう事にしました。

ギユナ星人は、第 1 アセンションを終えています。第 2 次アセンションはまだなので、単独で他の星々の人に関わる事はできません。

しかし、彼らは、地球人とも深い関係にあり、地球人の感情や意識も深く理解していますので、地球人に「宇宙の愛」を教えるには、最高の先生です。

私達はギユナ星人のとても分かり易いメッセージを受け取る事にしました。

\*\*\*\*\*

私達は、皆さんとはとても近い関係にあります。

古い親戚のような関係といってもよいでしょう。

同じ白鳥座のアルビレオ星人達が古代文明に関わり、マヤやインカ、そして古代エジプトを作る事をサポートしましたが、私達は、それからあとの時代、大きな文明が滅んでしまったあとに、現代の地球人の時代から関わってきました、

私達が地球人と関わる歴史は、決して長くありません。

それは、私達がアセンションして、それほど長い時期が立っていないからです。

私達が、他の星の指導をお手伝いする様になったのは、私達のアセンション後です。

他の立派なスター・ピープルの皆さんのように、素晴らしい能力があるわけではありませんが、私達の星が、これからアセンションした後の地球と最も似たような関係にあるという事で、今回皆さんのアセンションをお手伝いする事になりました。

私達の目的は、私達がアセンションした時の状況を皆さんにお伝えするという事と、皆さんがスムーズにアセンションできるように、皆さんの感情を癒し、皆さんの意識の成長をお手伝いする事です。

私達もまだ、感情を持っています。

人を愛したり、喜んだり、楽しんだりします。時には悲しんだりする事もありますが、誰かを憎んだり、恐れたり、また誰かに頼ったりする事はもうすでになくなりました。

地球のアセンションにとっては、私達もそうでしたが、これらの感情と向き合い、乗り越えていかなければなりません。

地球人にとって今回のアセンションは最初のアセンションです。

最初のアセンションは、多くの場合、自分達の感情を上手にコントロールしてより高い意識の状態に入る事が求められます。

その基本は、自分自身と同じように他人や他の生命を尊重し大切に扱う事です。

他人を憎んだり恐れたり、あるいは依存してしまうと、自分自身のエネルギーも非常に

荒々しくなり、相手に対して攻撃的なエネルギーを向けてしまいます。

依存するという事も、相手からエネルギーを奪おうとする行為となります。

アセンション後の世界は、お互いのエネルギーを理解できる世界ですので、他人に対して攻撃的な感情やエネルギーを持っていれば、それが相手にダイレクトに伝わってしまい、相手を傷つけてしまいます。

特に怒りや憎しみの感情を持つと、あなたは、相手を傷つける様子を想像します。

するとその通りの事が相手に起きてしまうのです。

アセンションする世界の基本は、人を愛する事です。

偉大なスター・ピープル達は、「宇宙の愛」の事を良く語りますが、私達もアセンションするまでは、「宇宙の愛」と言われても「????」はてなマークがたくさん並ぶくらいに理解できませんでした。

「宇宙の愛」は、皆さんが、怒りや憎しみ等の感情をすべて捨てた後でないと、本当は理解できません。

しかし、「宇宙の愛」に向かって歩む事は、今日からでもできます。

地球人が、昔から行ってきた事をそのまま行えばよいのです。

それは「自分と同じように相手を大切にする事です。」

何故、今の地球人がアセンションできないかというと、基本的に相手を大切にする事を忘れてしまったからです。

皆さんは、お金や恋愛を始め、多くの物欲や

支配欲、あるいは自分を良く見せたいという欲望に支配されています。

その為に、相手を大切にすることを忘れ、相手を利用すること、相手よりも優れていることを大切にすることになったのです。

小さな子供達に通う学校でも、常に誰かと比較されたり、クラスの中でのテストの順位に一喜一憂したりします。

そして、親達も、他の子供達を蹴落として少しでも優秀な学校にいれようとしています。

高校に行っても大学に行ってもそれは変わりません。

常に優秀である事、常に誰かよりも優れた成績をとる事、少しでも有名でお給料の高い会社にはいる事。あるいは少しでも他の男性よりも給与が高く優秀な男性と結婚する事。

このような競争社会に育った人は、優秀になればなるほど、他人を大切にすることを忘れ、自分自身が他人を支配できるような幻想に陥ってしまいます。

そして、その幻想に従わないものやその幻想を否定する者達に対して大きな怒りや憎しみ、あるいは軽蔑を持ちます。

その様な生き方をしてきた皆さんに、いきなり「宇宙の愛」といっても理解できないのは当然です。

皆さんの中には、愛に対する教育が殆どなされていないからです。

しかし、現代社会のエリート教育を受けていない先住民族や学歴がない人達のほうが、「宇宙の愛」を理解しやすいのは、余計な価値観やまちがえた教育による思考方法が入っていないからです。

私達は、まず皆さんに、「自分のために他人

を利用する」という考え方をやめてほしいと思います。

出来れば、「自分は他の人達を幸福にするために存在している。」と考えてください。

この考えが素直にできれば、あなた方は、他人に対して、何をしてあげたらよいか、何をしてはいけないか、という事が理解できるようになります。

この考え方の通り、皆さんが生きていけば、皆さんはもうすでに光の世界にいるといっ  
てよいでしょう。

光の世界に集まっている人達は、常に他人の幸福を願い、他人に対して優しくふるまっています。

これが「宇宙の愛」の第1ステージです。

そしてこの考え方が身につくと、さらに皆さんは人間だけでなく、同じ地球に生きる生命達、動物や植物、そして地球そのものに対しても同じように、愛をもって接する事になります。

そうなると、原発や環境を汚染するような産業の仕組み、人々を差別するような社会の仕組みが、どれだけ愚かなものであるか理解できるようになります。

難しい科学的な理論はわからなくても、直観的に、これはいけない、と考えるようになります。

もちろん食事なども変わってくるでしょう。人間と同じように感情や意識を持っている牛や豚などの動物達の肉などを食べる事が苦痛になってくると思います。

食べようとする、彼らの苦しみや絶望の感情があなたに流れ込んでくるからです。

そして、地球の意識や地球に生きるもの達の感情が理解できるようになります

あなたはやがて、「宇宙の愛」の第 2 ステージである「自分は他の生命を幸福にするために存在している」という意識にたどり着くでしょう。

そしてその様な人達が、この地球にたくさん増えてくると、第 2 のアセンションが起こる可能性があります。

もうそこには、人間としての様々な感情は消えて、ただ愛だけがあるという世界になります。

この第 2 のアセンションを乗り越えると、宇宙連合の人達も、その星の人々に賞賛を送り、他の発達途上の星々に対する支援をお願いするようになると思います。

今回は、地球の人々が「宇宙の愛」の第 1 ステージに到達する事が、アセンションの目的であり、ファースト・コンタクトを行って、地球人がスター・ピープル達と共に働けるようになる前提条件です。

この意識に到達できない人は、今までの地球と同じ世界で学び続けなければなりません。おそらくこのような人は、アセンションにも何の興味も示さず、今迄と同じような生活を続けていく事になります。

しかし、これだけ、スター・ピープルや天使達が呼びかけても、自分の意識を目覚めさせる事が出来なかった人達には、さらに過酷な学びが待っているようです。

それは、小さな目覚まし時計の音で目覚めなかったために、大きな音の目覚まし時計をあなたの耳元に置かれる事と同じです。

私達は、皆さんの先輩であり、兄貴のような存在です。

皆さんが、自分達の感情に捕らわれて、アセンションを恐れている事もよくわかります。また反対に、自分の意識を高める事なく、漠然とアセンションに期待している事もわかります。

出来れば、私達がアセンションした結果をもとに「自分は他の人達を幸福にするために存在している。」という考え方を身に着け、行動して下さるようお願いします。

このくらいの事が出来ないようでは、基本的にアセンションした世界に行く価値がないと思われても仕方がないのです。

私達は一人でも多くの方が、この考え方を身につけ、アセンションしていただけるようにサポートしていきます。



## 第5章 学びの世界に残る神

### と新しく生まれる神

#### PART1 去っていく神々

地球のアセンションもどんどん進んでいます。

地球の人々も多くの人達が、自分が望む世界へと移り変わっていきます。

勿論地球の人達の中でも 7 割近くの方は、ほとんど今と変わらない光 40% 台の世界に行くようですので、何の変化も感じる事なく毎日を過ごしている事とおもいます。

光 56% 以上の世界に行く人は、自分の中で様々な変化を体験している事でしょう。

不要な感情や過去を清算し、新しい世界に向けて進むための準備をする事になります。

しかしそれぞれの世界に分かれていくのは、人間だけでなく、神々やマスター達も同じようです。

8 月 20 日頃、いつも私達の守護をしてくれている天照大御神を呼び出しました。

彼女は、どんよりとしたエネルギーを体にまとってやってきました。

「天照大御神よ、その重苦しいエネルギーは一体どうしたのですか、

あなたの輝きが失われているようですが。」

天照大御神は、切なそうな顔をして答えます。

「実は、私は日本の人々の多くの方に信仰されています。

神社だけでなく、ご家族で住まわれる自宅にも私の札や信仰のための神棚が供えられ、皆

さんが手を合わせてくださいます。

しかし、皆さんは、私にお願いするばかりですので、依存のエネルギーが強く、私にそのエネルギーが大きく影響しているのです。」

確かに、天照大御神は日本でも最高の神様ですから、日本全国の人々の信奉をうけています。

しかし、同時に人々の不満や憎しみ、怒りのエネルギーも受け取ってしまいますし、多くの人達から依存されてしまいます。

以前その様なエネルギーを利用して、私達への攻撃が相次いだので、さらにパワフルな天照大御神に交代してもらったのですが、それでも天照大御神が身動きできない程のエネルギーが来るようです。

「私は、この日本の人々のエネルギーに繋がれていて、皆さんと同じ世界には行けないようです。

私の力で、日本の人々を目覚めさせ、アセンションさせてあげたいと心から願い、天のウズメや大国主達と共に働いてきたのですが、この時期になっても多くの日本人が目覚める事なく過ごしております。

私は、私を求める人達のもとにいなればなりません。

私は、学びの世界に残り、日本人の皆さんが、これから一人でも多くアセンションできるように努力したいと思います。」

私は、この事をアシュタールのエレナさんに聞いてみました。

天照大御神は地球のアセンション評議会の代表の一人です。

「TAKESHIさん、この事は、私達も大変困っている事でした。

彼女は、大変難しい立場で働いてくれました

が、私達は彼女の意思を尊重したほうが良いとおもいます。」

私はとても悲しく思いました。

今迄一緒にアセンションのために働いてきたのですから、当然同じ世界に行けると思っていました。

「天照よ、あなたの気持ちは良くわかりました。

あなたが望む世界に行く事が最善のようです。」

「TAKESHI さん、私の気持ちを察していただきありがとうございます。

今私が、彼らの世界からいなくなってしまうえば、日本の神社は空っぽになり、日本人の多くが、また悪意を持った地球外生命体達に操られてしまいます。

そうすると、日本人にはアセンションの機会が奪われてしまいますので、そうならないように、私が日本人を見守りたいと思います。」

確かに天照のいう事は正しいようです。

私は、天照と共に活動しているベガ星の神々達を呼び出しました。

ベガ星は、古くから地球と関わりがあり、日本に降り立っている神々のほとんどが、ベガ星のスター・ピープル達です。

天のウズメや大国主大神、スサノオの尊達もやってきました。

天のウズメやサラスバティ、そして日本の女神達は天照大神と共に残り、彼女を支えていくようです。

ただし、大国主大神とスサノオの尊は、自分達の成長のために、これからのアセンションを共に迎えるようです。

ベガのスター・ピープルの中でも、2つに分

かれるという事は、私も考えていませんでしたが、これも彼等の意見ですから尊重しなければなりません。

私は、サナートクマラとサナンダを呼び出し、天照達をアセンション評議会から外し、丁寧に見送るように伝えました。

「TAKESHI さん、わかりました。

私達も天照大御神様には大変お世話になりましたので、さびしい限りですが、涙を抑えて見送る事にしましょう。」

そうして、天照を始め日本の女神達は、自分達を信仰する者達と共に、学びの世界へと旅立っていきました。

「TAKESHI さん、皆さん、本当にお世話になりました。

私達も時間はかかるかと思いますが、一人でも多くの人を、皆さんお世界へ送りたいとおもいます。

そして TAKESHI さん、もう私の名前は呼ばないでくださいね。」

私は、涙を抑えてうなずきました。

### PART3 去っていく種族達と新たな太陽神

私はそのほかにも、私達と共に、アセンションできない者達はいないか尋ねてみました。私のもとに現れたのは、日巫女族をはじめとする地球の物理世界の人々と深く関わっていた種族達です。

私は、今迄私達の現実的な世界を守護してきた種族達の多くが、光の世界に行かず、学びの世界に行く事を聞いて驚いています。

日巫女族が私に詳しい話をしてくれます。

「TAKESHIさん、私達は今迄皆さんと一緒に働いてきましたが、それぞれの種族の役割が異なっていますので、これから、皆さんと一緒にお供できる者もいればそうでない者もいますので、その事について私からご説明させていただきます。

先ず、私達日巫女族の本来の役割は、闇が多い世界で人々を光に導くものです。

私達は、光の世界には必要ではない存在ですので、学びの多い地球に残り、闇の中で迷う人々の光となって皆さんを導きたいと思っておりますので、私達は学びの世界に残らせていただきます。

乙姫族と森羅族に関しては、光の世界にいき自分達の成長を望む者と、未だ光の世界に行けず学びの世界で人々を導きながら、自らも学び続けたいという者もおりますので、おそらく2つのグループに分かれると思います。

隼人族に関しましては、自分達の学びがまだ十分ではないので、学びの世界にとどまる事になるでしょう。

輝夜族は、TAKESHIさんもご存じのように物質世界を離れて、エネルギー体として存在しております。

輝夜族のエネルギーはどの世界にとっても必要な物なので、全ての世界を照らす月のエネルギーとして、いくつもの世界に関わる事となります。」

私は、全ての種族が同じようにアセンションできない事を残念に思いましたが、やはり多くの地球人が、アセンションした世界に行けず、学びの世界にとどまる事となるようです

ので、天照大御神と同じように、その世界を守護し導く存在達もたくさん必要となる事でしょう。

私達は、彼ら種族の者達に別れを告げる事にしました。

「皆さん、今まで私達と共に働いてくださりありがとうございます。

地球のアセンションに向けて共に活動していたにもかかわらず、共に光の世界に行けないのは残念ですが、それが皆さんの種族の役割であり、また一人一人の学びであると思います。

どうか、これからも闇の力に負けず働いてください。

そして、学びが終わった者達は、すぐにでも光の世界に入ってきてくださいね。」

乙姫族と森羅族は半数ほどがさびしそうに立ち去ります。

日巫女族と隼人族は全員が、私達に深くお辞儀をして、私達の前を立ち去っていきました。

私は、エジプトのファラオ達を呼び出しました。

ファラオ達は全員、光の世界に行く気満々です。

「TAKESHI さん、私達は、地球の人々もそうですが私達自身が、アセンションできるように努力してきました。

私達はこの機会を数千年待ち続けてきました。

皆さんと共に、地球のアセンションを成功させ、私達も素晴らしいスター・ピープルになる事を夢見ています。」

彼等は大丈夫なようです。

私はエレナさんに尋ねます。

「今まで、私の近辺を守護していた種族達がファラオ達だけ残して、みな去っていくようですが大丈夫でしょうか。」

エレナさんは笑って答えます。

「TAKESHIさん、どうして、そんなに気弱になったのかしら、今迄どのような状況になってもやり通してきたあなたが！。

心配しなくても大丈夫ですよ。

先日、私達スター・ピープル達が、これからは皆さんを、直接守護をしてもよいという許可が出ましたので、さらに物理世界に近いところで、皆さんを守護する事にしたいと思います。」

確かにそういえば、最近宇宙船が、私達の近くにいる事も感じます。

「それにあなたに危害を加える地球外生命体達もそれほど残ってはいませんし、いたとしても役割を制限されていますので、さほど大きな攻撃はできないでしょう。」

私は、その言葉を聴いて安心しましたが、不安は残るので私達を身近な場所で守護するために、スサノオの尊に騎士団を作り、彼に守ってもらう事にしました。

大天使ミカエルも私の案に賛成してくれて、ミカエルの力を分けてもらいスサノオの尊の騎士団を結成して、私達の守護を身近な場所でしてもらう事にしました。

スサノオの尊は、自分の騎士団が出来た事を大喜びしています。

「TAKESHIさん、ありがとうございます。私も、この騎士団を持ち、皆さんを守護するという役割をとおして、アセンションに関わる事が出来てうれしく思います。

どうか、私に何でも必要な事はおっしゃって

ください。」

そしてもう一つ気になっていたのが、新しい世界での太陽神です。

「エレナさん、天照大御神がアセンションした世界に行かない事になりましたが、私はアセンションした世界にも強力な愛の光を放つ太陽神がいたほうが良いのではと思うのですが、いかがですか。」

「あなたがそのように考えるならば、太陽神を作ってよいと思いますよ。」

エレナさんはそのように答えます。

私は、ベガ星に行き、ベガの惑星意識であるマスターベガに、新たな太陽神の創造をお願いしました。

天照大御神もこのベガの惑星意識によって生み出されたのです。

私が来るとベガの惑星意識も喜んで迎えてくれます。

以前、星のツアーで「白鳥の六芒星」に関わる問題を、私達が解決した事を彼女はとても喜びに思っています。

「私の大切な子供達よ、あなた方が元気に活躍している姿を見るととてもうれしく思います。

地球のアセンションッはもうすぐ完了しそうですね。

これは、天の川銀河の全てに関わる事ですから、しっかりとやり遂げてくださいね。

でも本当に夢のようだわ、私のもとに最初来たときは、何もわからず怖気づいていたあなたが、ここまで立派になるとは。」

「ベガの惑星意識よ、あの時は本当に何も知らない子供のようにでした。

皆さんに育てられて、ここまで来た事を私は



心から嬉しく思っています。

今日はあなたにお願いがあってやってきました。」

ベガの惑星意識はまるで、紅白歌合戦に出る小林幸子のようなキラキラした姿でにこやかに笑います

「あなたが考えている事はすぐにわかるわよ、

光の世界の太陽神が欲しいのでしょうか、もう準備してあるわよ。」

私達の目の間に、素晴らしい光りを持った新たな天照大御神が現れました。

「私は、ベガの惑星意識様によって生み出された新たな天照大御神です。

これから皆さんと一緒に、地球のアセンションのために働き、光の世界を守護していきたいと思います。」

彼女はベガの惑星意識にそっくりな光です。今迄の天照大御神は、まだ闇が多い世界に存在していたので、光が抑えられている感じですが、新しい天照大御神は、フルパワーの太陽の光をもったパワフルな神です。

私達はこれから、少し明るすぎる天照大御神と共に歩いていく事となりました。

その後、天照大御神は、光51%から55%の世界を担当する事になりました。

## 第6章 悲しみのアセンション会議

### PART1 10%の人しかアセンションできない状況

エリナさん達が何時ものようにアセンションの状況について報告に来てくれました。今日はすこし浮かない顔をしています。現在、8月末までに、地球の世界を分離して、多くの人達がどのような世界に別れていくのか、人それぞれの愛の度合いに応じて分けているところのようです。

「TAKESHIさん、実は人々の愛の度数と覚醒の度数を計測しながら、人々が進むべき道を分けているのですが、地球の人々の度合いが低く、アセンションした世界にはいる人は全体の10%程度になるようです。私達も随分努力したのですが、思ったよりも、皆さんの覚醒が遅れていて、アセンションの基準に達しないようです。これ以上、地球の人々のサポートを行っても難しいかもしれません。」

私も、地球の人々達が、地球外生命体の影響からだいぶ自由になってきましたし、地球の事をサポートしてくれるスター・ピープル達の数も増えてきましたので、もう少し多くの人々がアセンションできるかと思っていたのですが、非常に残念な気持ちになります。

「私達は、まだアセンションする可能性のある人達に、光の世界に行ける道とそうでない道を準備して、最後まで見守っていたのです

が、そろそろゲートを閉ざさなければならぬようです。

これ以上は、私達の力が及ばない所です。」

私達は、地球のアセンションのために、一生懸命に働いてくれていたスター・ピープル達にお礼を言います。

「本当に皆さんありがとうございます。

地球のアセンションも最終段階に入りました。

これ以上、地球の人々の分離を送らせても仕方がないでしょう。

それでは、最終段階の分離にはいるとしましょう。」

スター・ピープル達がうなずきます。

「私達は、地球の分離が終わった時から、ファースト・コンタクトの具体的な準備に入ります。

アセンションを行う地球では、9月になると、少しずつ私達の宇宙船が世界中で目撃されるようになるでしょう。

そして、地球の人々が、私達スター・ピープルとの交流を楽しみにしてくれるように、皆さんの意識を目覚めさせていきたいと思えます。

ここにいるスター・ピープル達の多くが、その時を待ち望んでいます。

そして、地球人と交流して、地球人が素晴らしいスター・ピープルになる事を、サポートしてくれるでしょう。」

「そうですね、私達は次のステージへと進みましょう。

ファースト・コンタクトが、最初の予定では9月になっていますので、もう時間がありません。

8月中に分離を終了し、人々の傷つけられた

遺伝子の修復と意識の活性化に取り組んでください。

私達の活動によって、新しい地球の未来が決まります。」

私達は、その後、今迄のスター・ピープル達の取り組みについてたくさんの報告を受けましたが、中には私達にも知らされていないスター・ピープル達の苦しみも多く語られていました。

この事は、別冊「アセンションの真実・スター・ピープルの詳細とメッセージ」にて詳しくご報告したいと思います。

ここでは非常に特殊な働きをしたプレアデイス連合の話だけをご紹介したいと思います

## PART2 プレアデイス連合が地球のアセンションで行った事

私はプレアデイス連合の地球担当司令官のパトリスです。

私達のプレアデイス連合も、アンドロメダ連合と同じように、地球の人類の創世の時期から、地球に深く関わってきました。

そして現在、私達も、地球のアセンションのための活動を、アシュタール連合、アンドロメダ連合、アルクツールス連合、そしてシリウス連合と協力して行っております。

連合として活動を行っている場合には、個別の星の者が連合の許可なくメッセージを発したり、連合によって定められた活動以外の事をする事は禁じられておりますので、TAKESHIさんの目には、私達の活動の内容が良くお分かりになられていなかったのです。

はないかと思えます。

また、私達の活動の詳しい内容を公開する事も、ダーク・ピープル達にとっては、その星を攻撃するための格好の材料となるために、私達のみならず全ての連合は、その活動の内容を伏せておりました。

しかし、9月になりますと、ファースト・コンタクトも始まり、アセンションもかなり完了しますので、地球の人達との直接的な交流も始まります。

そのときには、どのような星の者がどのような活動をしてきたという事も、地球の人々に知ってもらわなければなりませんので、私達の事も詳しくお知らせしたいと思えます。

先ずプレアティス連合の目的や役割ですが、私達もアンドロメダ連合と同じように、発展途上の星々に関わる事も良くあります。

しかし、私達は大きな戦力を持ちませんので、ダーク・ピープル達が関わっている場合や武力衝突が予想される場合にはアンドロメダ連合やシリウス連合にその場所はお任せいたしております。

私達は、武力衝突がない星々の人達に対して、愛をもって学びをおこなわせるという事を行います。

たとえば侵略や戦争の問題が解決された後の星に入って、アンドロメダ連合のミラク星の人達と共に、心と体に深い傷を負った人達に対して、愛をもって癒しを行います。

また、心に喜びや希望をもたらすようなエネルギーを使って、その人が立ち直るように指導します。

それは人型の生命だけでなくフェアリーやホビット、マーメイド達、そして動植物に対しても行われます。

TAKESHI さんもお存じのように、私達プレアデイスの者達はより高次のフェアリーやユニコーン達とも深くつながっておりますので、その様な存在に対してもサポートを行う事が出来るのです。

そして、私達のケアは惑星意識やクリスタル意識などに対しても行われます。

アンドロメダ連合の方達は物理世界に近い方面のサポートが得意ですが、私達はよりスピリチュアルなレベルに対するサポートを得意とします。

また私達は、人々や様々な存在の感情的な問題を解決する事が出来ます。

私達は、相手の感情や相手の意識との同調を得意としますので、心に苦しみを持つ人達や自分本来の意識を妨げられている人達と同調してその問題を解決していく事が出来ます。

しかし、地球においては人々の意識の中に、ダーク・ピープルが入り込んでいる事が多く、最初それを知らずに意識同調した仲間達が大変な被害にあってしまいましたので、この方法をとる事を中断しております。

そして、私達は他の連合と同じで大変優れた科学技術力を持っています。

地球のアセンションのために、恵理さんに、特別な遺伝子を加え、多くの星の人達と会話をしたり、目に見えない世界でコミュニケーションをとる事を可能にしたのも、私達プレアデイス連合と光のナソール達の科学技術によるものです。

この事によって皆さんは、アシュタールを始め多くのスター・ピープル達と自由に会話を行い、共に行動できるようになりました。

もしこの技術がなければ、皆さんとスター・ピープルとのこれだけ密接な共同行動は実現せず、第1次アセンションは成功する事がなかったかもしれません。

もちろん皆様方の継続的な努力が一番必要であったという事は言うまでもありません。私達は、様々な星の人達とのコミュニケーションや文化の交流が可能となるように、異なる種族の間をつなぐ存在を作り出したり、新たなコミュニケーションの方法を生みだしたりする事も非常に得意です。

私達は、昔から地球の第1次アセンションを心から待ち望んでいました。

私達が地球で行っている仕事についてお話ししましょう。

先ず私達は、地球の人々の感情を癒す事で、私達が持っている「愛」のエネルギーを受け取ってもらおうと思いました。

私達が皆さんに送る愛は、「宇宙の愛」へと皆さんを導くものです。

私達はスピリチュアル・レベルだけでなく、物理レベルでもイルカに協力してもらい、私達の「愛」を皆さんに送ってきました。

私達の愛は、皆さんの心から、様々に積み重なった苦しみや悲しみを取り除き、喜びと希望を与え事で、自分自身を制限していた物から自分自身を解き放つ事を可能とします。

そして自分が生きている事に感謝と喜びを持つ事で、自分だけでなく家族や友人達に対してもゆるぎない愛を持つ事が出来るのです。

私達は、常にその様なポジティブな立場から、皆さんがアセンションする世界に向かえるようにサポートしてきました。

そして心の準備が出来た人から、私達が意識

同調を行い、さらなる高い次元にある「宇宙の愛」へと皆さんを導いていく予定でした。多くの星では、この方法で星の人々をアセンションさせていく事が出来たのですが、地球では大変な事が起きてしまったのです。それは意識同調した相手の意識が、すでにダーク・ピープルである地球外生命体とひとつになっている人がたくさん存在していたのです。

私達は本来「純粋な愛」の存在です。相手を疑う事なく、愛と喜びの気持ちをもって相手の意識の中に入って行ったのですが、相手の中で待っていたのは残忍なダーク・ピープルの意識だったのです。意識同調を行った者は、エネルギーと光りを奪われ、傷つけられていきました。

最初はその原因が分からなかったのですが、相手の意識の中に、ダーク・ピープルが入り込んでいると分かった時には、多くの仲間達が傷付いていました。それは現実世界においても、私達と同じように地球の人々に意識同調を行って愛を伝えようとしたイルカ達も多くが犠牲になってしまいました。

私達の主力部隊は一度、治療のために自分達の星に戻り対策を検討しました。そして意識同調ではない方法で地球の人達に「愛」を教える方法はないかと考えていました。幸い TAKESHI さん達が、その事に気づいて、人と一体化していないダーク・ピープル達を、光に返したり、彼らの活動や能力を大きく制限してくれた事で、私達も活動しやすくなりました。また、私達の仲間達がダーク・ピープルによ



って奪われた光やスピリットもすべて TAKESHI さん達が取り戻してくれたおかげで、傷ついた多くの仲間達も元の状態に戻る事が出来ました。

私達は再度地球に集まり、地球全体に対して愛のエネルギーを送ったり、地球の人々の感情を癒す事を行いました。

これらの活動は、主にプレアディス連合の中でも、人々の癒しを得意とするマイヤ星、メウロペ星、セレーノ星の者達が中心となっ  
て行いました。

プレアディスのもう一つの大切な働きがありますが、それは私ではなくアルシオン星のジョシヤの方からお話をしたいと思います。

### PART3 アルシオン星のジョシヤによる報告

私はアルシオン星のジョシヤともうします。パトリス司令官のもとでエレクトラ星の者と共に次元の分離を担当している者です。

私達が住むアルシオン星とエレクトラ星は非常に高い叡智と科学技術を持っている星です。

この宇宙でも有数の図書館を持ち賢者達の会議も良く開かれています。

私達の願いは、天の川銀河とプレアディス星団が、調和がとれた進化を行う事です。

そのために、スター・ピープル達の多くがそうであるように、スピリチュアルな愛の部分と科学技術を両立させながら進化させていかなければなりません。

私達は、この宇宙のダーク・ピープル達の暴

拳や多くの星々の戦争なども見てきました。  
私達は、平和を深く望んでいます。

そのために、多くの星々の和平をおこなったり、異なる種族の者達が分かり合えるように、お互いの種族の特性を持った存在を生みだしたり、新たなコミュニケーションの方法を生みだしてきました。

しかし、その様な方法では、解決できない事もある事を知りました。

それは、戦争を行っている者が、和平を行う気持ちがなく、相手を支配したい、侵略したいと考えている場合です。

私達は、その様な時の解決法として、お互いの星の次元を分ける方法や愛に基づかない行為を行っている星を次元降下させる方法を開発してきました。

良く皆さんが、星のツアーなどでマザークリスタルを破壊された星や荒くれ者のマスターがいる星などが次元降下していた事を良くご存じだと思います。

もちろん皆さんは、その問題を解決し星の次元を上昇する事を何度も行ってくれましたので、この事は誰よりもご存じだと思います。

実はこの方法は、創造主様と私達で考え出された方法なのです。

星を次元降下させたり次元上昇させる技術を開発するために、私達は気が遠くなるほどの時間と労力を使いましたが、この技術のおかげで、他の星を侵略しようとするダーク・ピープル達の動きを抑える事が出来るようになりました。

それは、どこかの星を侵略したり乱暴行為を働いた星の人々は、このシステムによって星ごと次元降下させられる事となりました。そして、乱暴を働いていた者達が死に絶えた

り反省を重ねてアセンションした場合には、再び星は次元上昇する事になっています。

この技術は、侵略行為を行った星に対する処罰のほかにも、星々のアセンションにも利用される事になりました。

通常は、ひとつの星がそのままアセンションしていただくです。ので何の問題もないのですが、地球のアセンションには大変困りました。

創造主さまから、このように言われたのです。先ず一つの地球を、光の度合いに応じて30くらいの別次元に分ける事、そしてそれぞれの次元に、物理的な地球に生きている人々を振り分けて生きる世界を作る事、最後に、ディセンションした世界は核兵器を使用する可能性がある。ので完全に閉鎖する事。

さすがに私達も目を回しました。

今迄に開発した技術等問題にならないほどの困難さを持っています。

私達は、この宇宙の再興の叡智と言われるデジャビロッド星人やエリシタール星人、そして創造主の皆さんにも力を借り、ようやくこのシステムを開発しました。

このシステムがない事には、地球の第1次アセンションは絶対に成り立たないのです。もちろん今回初めてこのシステムを稼働しますのでトラブルはつきものですが、デジャビロッド星人やエリシタール星人にも協力してもらい、常に改良を重ねながらこのシステムを運営してきました。

そしてもうすぐ、このシステムの最終段階である次元の完全分離が、2016年の9月から行われる事となります。

今回プレアティス連合が、最初から中心的な

立場で関わったのは、地球人と私達が以前から深い関係にあるという事もそうですが、この次元分離のシステムに地球のアセンションがかかっているからです。

私達は地球のアセンションの状況を見守っていますと、ダーク・ピープルの代表であるグラッド星人や狂気の創造主が暴れだして、もうだめかと思う事が何度もありましたが、皆さんの力強い団結力のおかげで、何とか次元分離を成功させるところまでやってきました。

これから、最終段階ですので未だ気が抜けませんが、最後までプレアディス連合の名誉にかけても成功させたいと思っています。

## 第7章 シャンバラの聖者の 来訪

### PART1 シャンバラの聖者からのコンタクト

8月の中旬頃から、私達に対してシャンバラの聖者達からのコンタクトが始まっていました。

最初は恵理さんのもとにコンタクトしてくれましたが、8月23日の夜に、数名の神官の様な姿をした人達が私達のもとに姿を現してくれました。

皆さん3mから5m位もある長身の方達です。

私達も、以前2回ほど星のツアーで「シャンバラ」に行った事があります。

シャンバラは、1度目と2度目とは異なる世界に入ったようです。

これは、その人達の意識状態によって入れる場所が異なっていたようです。

しかし、どちらの世界も、とても穏やかで平和に満ち、美しい世界でした。

そこに住んでいる方も、聡明で愛に満ち溢れた人達で、レムリアやムーの古代文明とも深いつながりがある場所です。

しかしシャンバラの秘密は奥深く、私達にとっては、まだ未知の世界です。

私はエレナさんやロッド星人を呼び一緒に話をする事にしました。

エレナさん達とはもうすでに知り合いのようで、この地球のアセンションにも協力してもらっていたようです。

いつもの事ですが、知らないのは私達だけのようです。

「TAKESHI さん、シャンバラの聖者達は、とても聡明なスター・ピープルです。

すでに第3次アセンションを終了されているようで、とても高い波動を持ち、他の星々に対しても進化のためのサポートを行われている方達です。

地球のアセンションに対しても非常に素晴らしい意見や情報を私達に提供して下さっています。」

私は、シャンバラの聖者の事は知っていましたが、エレナさん達よりも高い第3アセンションを終え、他の星々の方達のサポートにまで行かれている事に驚いています。

もちろん、地球の内側から地球に対しても多くのサポートを行ってくれていた事は間違いのないようです。

私はシャンバラの聖者の言葉に耳を傾ける事にしました。

シャンバラの聖者は落ち着いた静かな声で語り始めます。

「地球のアセンションが進み、皆さんとこのような形でお会いできる事を私達は長い間待っていました。

TAKESHI さんは覚えていないかもしれませんが、あなたがレムリアの神官をしていた時に、良く私達のシャンバラへ来て頂きました。

私達は、このシャンバラで、常に地球のために祈り続けています。

古代レムリア人やムー人、そして初期のころのアトランティスの人々、アガルタの人々も、その当時は私達と共に、地球と宇宙に対して

祈りを行ってきました。

私達は、古くから仲の良い友人であり、地球の人々を進化させるために努力してきましたが、アトランティスやレムリアが崩壊した事により、地上の人達との交信が途絶えてしまいました。

時折、私達の意識と同調して、意識体でシャンバラに入ってくる方もありましたが、古代エジプトのファラオ達を除き、地上の人々の進化に影響を及ぼすほどのコミュニケーションを取る事はできませんでした。

私達は、地球の地下に異なる次元を作り、そこに生きています。

物理学的には存在しない場所ですが、スピリチュアル的には存在しています。

私達も、かつては肉体を持っていましたが、いくつかのアセンションを超えて、肉体のない体になりました。

そうしなければ、地球の地表に住んでいる人々の感情のエネルギーや戦争、特に核兵器の使用によるネガティブなエネルギーに大きな影響を受けてしまうからです。

私達の役割は、この地球の地下の次元で、常に地球のコアのエネルギーを守り、地球を安定させる事です。

そして、地球の表面に住んでいる人達をサポートして意識の進化を行わせる事です。

しかし、地球の人々の多くが、ダーク・ピープルの影響を受けていますので、地球の人々の意識進化はなかなか進みませんでした。

いつも戦争や殺し合い、奪い合いばかりを行い、地球の環境や地球に生きる多くの生命達に負担をかけ続けています。

本来は清らかで純真な心を持った人間達ですが、いつしかその純粋な心を奪われ、自己

中心的な生き方をするようになってしまったのです。

私達は、地球人がそうならないように祈り続けてきました。

地球の人達の素晴らしい愛が傷つけられないように、守っていた事もありました。

しかし地球は、核兵器や原子力発電の発明によって、危機的な状況を迎えています。

第2次世界大戦の時に核兵器が使用させられた事により、地下にいた私達にも大きな被害が生まれましたし、地球から遠く離れている星々に対しても恐るべき被害が起こりました。

私達は、このままでは、地球は多くの星々に対して取り返しがつかない被害を起こしてしまうのではないかと思い、宇宙連合とも相談してきました。

そして、創造主達の考えにより、光ある者達の修行の場として使用してきた地球の役割を終了させ、地球をアセンションする地球とディセンションする地球に分けていただく事にしましたのです。

地球の核兵器や原子力発電は、ダークピープルである地球外生命体により、科学技術を与えられ作られたものです。

地球人は、その恐ろしさをまだ知りません。しかしダークピープル達は、この核兵器を使用して、地球のみならず他の星々も支配しようとしています。

それはシリウス星系でも起こった事です。

地球を見守ってきた私達としては、それはもっとも避けなければならない事です。

そのために、私達も、様々な働きかけを地球人に行ってきたのですが、成功しませんでし



たので、地球の2分化を行うしかないと考えました。

そうする事で、核兵器や原子力発電をディセンションした世界に封じ込め、一般の星々の人に対して被害が広がらないようにしたいと考えています。

しかし、アトランティス文明が、科学技術が暴走して壊滅した時から、地球人は大きなカルマに飲み込まれたようです。

それは、ダークピープル達の遺伝子操作や心理操作によるものですが、それを受け入れたのもまた地球人です。

私達は、同じ地球人として、その過ちを償い補わなければなりません。

私達、シャンバラ人は、地球がアセンションしてある一定の波動を持つ人達ばかりになった時、地球上に現れようと思います。

私達は、スピリットですからどのような姿でも取れますし、地上の地球人と深く関わる事で、地球を愛によって守っていきたいと思います。

私達は、私達が、長い間かけて育んできた叡智を地上の人達と分かち合う事にしましょう。」

## PART2 愛の苦しみを癒し「宇宙の愛」へとつながる

私達の部屋は、シャンバラの聖者達の優しい波動に満ち溢れています。

すると、私の意識が、サードアイから抜けていくような感じがします。

意識が私の頭の上空のところにとどまると、私の周りにシャンバラの聖者やエレナさん、

アンドロメダ連合のガジェットさん、そして  
ロッド星人達の姿も見えます。

どうやら、シャンバラの聖者達のエネルギー  
によって、私の意識がどんどん上昇していき  
ようです。

今まで、スター・ピープル達の姿が見える事  
はなかったのですが、意識が上昇してくると  
確かに彼等の姿が見えるようになってきま  
した。

私の中にある遺伝子が大分修復され、私の能  
力が活性されてきた事で、意識が上昇しやす  
くなっているようです。

すると私の中に、いろんなスター・ピープル  
の意識が流れ込んできます。

彼等は、私の中にある様々な感情やエネルギ  
ーを浄化しようとしてくれているようです。  
特に、私の中でわだかまっていた感情があり  
ます。

それは「人を愛する事、愛される事」に対す  
る恐れの感情です。

地球の人々の多くが持っている感情ですが、  
この感情がある事によって地球人の愛の度  
数が上昇していかないのかもしれませんが。

私の脳裏に、今迄の人生の中での悲しい出来  
事が様々とよみがえってきます。

両親への思いや結婚した人との出来事が、い  
くつも蘇り、その思いを光に返していきます。  
私は、地球に生れる前にもさかのぼり、様々  
な星で経験した事も思い出し光に返します。

すると次に、「宇宙の愛」の意識が入り込ん  
できました。

耳を澄ませば、多くの人々の声が聞こえてきま  
す。

私達に助けを求める声や自分達の哀しみを

訴える声、怒りや苦しみを訴える声もあります。

私は、一つ一つの声に意識を集めれば、その声がしっかりと聞こえるような気がしますので、その声に私が持っている愛を送りながら声をかけていきます。

私の指先からキラキラと光がはなたれ、その声の人のところに届くと、苦しみや悲しみが癒されていくようです。

私は更にエネルギーを上昇させていくと、漆黒の宇宙に出ます。

漆黒の宇宙はさびしく遠くで冷たく星が輝いているだけですが、私が意識を切り替えると、星々は明るく光を放ち、自らの存在をアピールするかの如く、様々な色に点滅したり、音楽を奏でたりするのです。

私がそのひとつに手を伸ばすと、その星からのメッセージも伝わってきます。

星に生きる人々の愛と喜びの感情や希望に満ちあふれたパワフルなエネルギーが伝わってきます。

もちろん、一つ一つの星によって、星が持つ感情は異なるようですが、私のスピリットはそのエネルギーを受け取る事ができるようです。

私はしばらく「宇宙の愛」について考えていました。

すると、頭の頭頂部のところがジンジンと熱くなります。

この頭頂部にかぶさっている小さな帽子のようなものが、私がこれ以上の世界にはいる事を邪魔しているようです。

私は、これは何かとロッド星人に尋ねると「これはあなたが今まで地球人として生きていくために必要だったものです。

あなたは会社を経営しているので、統率力や

経営上必要な能力などの象徴としてありますが、光の世界になると、全ての人が自発的に必要な事をしますので、このエネルギーも全く不要になります。」

これは、私が現実社会で生きていくために必要なエゴみたいなものです。

地球上の多くの人達が、このようなエネルギーを持って生きていますが、アセンションした世界には必要がないようです。

私は、そのエゴも手放していきます。

スター・ピープル達が、優しいエネルギーを使って私を支えてくれます。

これが、アセンションした後の世界なんだと、私はスピリットの意識で感じています。

2016年8月24日

## 創造主評議会の詳細

### ○各評議会の創造主について

	創造主の役割 アセンションを妨害する理由
第17 評議会	物理的な宇宙を管理する最高責任者。 5人の創造主がひとつの意思に基づいて動いている
	私達の宇宙を光に満ちた宇宙にするために、地球のアセンションを通して創造主達を再構成しようと考えていたが、「変化の宇宙」の創造主達の介入により予定が大きく狂ってしまい、地球のアセンションは混乱した。それを収拾する為に物理世界にも介入してはたらいてくれている。
第16 評議会	創造主達の指導を行い、宇宙創造の管理を行う 私達の活動をサポートする「時と空間を司る創造主」もこの評議会の1人
	第17評議会によって第16評議会の中に、下位の評議会の創造主を成長させるために、あえて問題を引き起こす創造主達が作られた。彼等が「変化の宇宙」の創造主達により強化され、第17評議会も手におえない程に、凶悪化してしまい「すべての闇を作り出す創造主」を中心に私達の宇宙の支配をもくろみ、私達の活動に介入してきた。
第15 評議会	物理次元を持つ宇宙に関わる最高次元の創造主。 アセンションを行うために私達を地

	<p>球に降ろした創造主。</p> <p>異なる宇宙の創造主達にコントロールされて他の宇宙とのゲートを開く。</p> <p>第 15 評議会から出ていった創造主「全ての闇の宇宙を統括する創造主」により闇に満ちた宇宙が数多く作られ、地球のアセンションを妨害する為に多くの罠が仕掛けられる。</p>
第13評議会	<p>私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて創造主達の指導を行う。</p> <p>5人いる第13評議会の創造主のうち3人が、「すべての創造主を指導する創造主」を生みだした創造主により意識をコントロールされ「すべての創造主を指導する創造主」を擁護し、地球のアセンションを妨害していた。</p>
第12評議会	<p>私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて創造主達の指導を行う。</p> <p>第12評議会のリーダー的存在である「すべての創造主を指導する創造主」が下位の評議会の創造主の働きを多様性のある宇宙を創るという事で擁護していた。そして自分もこの宇宙の実権を全て握るために、他の宇宙の創造主を巻き込みアセンションの妨害をおこなってきた。</p>
第11評議会	<p>私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて全ての宇宙の創造を行う責任者</p> <p>「感情に飲み込まれた創造主」が、「略奪の宇宙」「無機質の宇宙」「カオスの宇宙」などから高い能力を持つ創造主やダークピープルを地球に招き入れ、アセンションした世界の破壊をもくろむ。</p>

第10評議会	私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて全ての宇宙の創造を行う責任者
	第10評議会の創造主達と対立する「混乱の宇宙を作った創造主」が地球にアセンションを妨害する為にさまざまな計画をめぐらし、自分達の宇宙の創造主を利用したり、他の宇宙からの創造主を招き入れる。
	創造主の役割と墮落した理由
第9評議会	私達の宇宙とは異なる全ての宇宙も含めて管理や指導を行う。
	「リセットの創造主」が、創造主の学びを行わせるために、下の創造主の正義感や判断力を忘却させ、混乱に陥れる。
第8評議会	全ての宇宙を見守り創造主達の指導を行う。 私や恵理さんと同じスピリットを持つ創造主が、宇宙の様々な世界の探査を行う。
	第9、第10評議会に、下の宇宙の出来事を報告する「全てを見渡す創造主」が「リセットの創造主」により正義感を失われ、支配欲を持ち「怒れる創造主」を作ったり、宇宙を支配のための企てを行う。
第7評議会	全ての宇宙を見守り創造主達の指導を行う。 「全てを見守る創造主」がリーダー
	上の評議会から闇を持った創造主として生み出された「怒れる創造主」が評議会に反乱を起こし全ての宇宙での闇の創造主の大元となる。
第6評	全ての宇宙を見守り創造主達の指導

<p>議会</p>	<p>を行う。 「全ての創造主の働きを持つ創造主」がリーダー</p> <p>「変化を促進する創造主」が、創造主を成長させたいという理由で宇宙に闇のエネルギーを流すが、本当の理由は宇宙の支配。</p>
<p>第5評議会</p>	<p>第4評議会が作った全ての宇宙を管理。「陽の働きを持つ創造主」がリーダー</p> <p>第4評議会の創造主達から騙されて闇に落ちた「暁の光の創造主」が下部の創造主の光を奪う。</p>
<p>第4評議会</p>	<p>1人1人の創造主が、独自に宇宙の原型を作り出し、スターピープルと下部の評議会に創造を委ねる。お互いの宇宙にはあまり関わらない。</p> <p>「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」が対立していたが共に闇の創造主となり、2人が手を組んで宇宙の支配をもくろむ。下部の評議会の創造主達を闇の創造主に仕立てあげていった。</p>
<p>第3評議会</p>	<p>「道を指し示す創造主」を中心に、第4評議会の創造主によって作られた宇宙の細かい部分を創造し運営する。他の創造主を信頼するあまり闇落ちた創造主を放置する。</p> <p>「宇宙の創造を管理する創造主」や「道を作り出す創造主」が闇の創造主となり、この宇宙を光の創造主から奪い取るために、闇の創造主達を地球の各地に配置しアセンションを妨害してきた。彼等は第4評議会の創造主に操作されていた。</p>
<p>第2評議会</p>	<p>「栄光の創造主」を中心に第3評議会によって作られた宇宙の創造と運営</p>



	<p>を手伝い、第1評議会の働きを管理し手助けを行う。様々な宇宙の中で大きな問題が起きた時はその解決にあたる。</p>
	<p>第3評議会の闇のエネルギーによって過去に創造主大戦争を引き起こした。今回も闇のエネルギーの影響で、第2評議会の中心的な創造主が闇に落ち、宇宙を混乱させ、アセンションを妨害し、私達にも大きなサイキック・アタックを行なった。</p>
第1評議会	<p>「源の創造主」をリーダーに「光彩の創造主」等が上の評議会から託された宇宙を具体的に運営する。また物理世界に生きる多くの存在達の成長を助け、宇宙連合へ迎え入れる。</p>
	<p>上位の評議会からの闇のエネルギーの影響で、第1評議会の創造主のリーダーである「創造主の独自性を育てる創造主」等、主だった創造主が闇の創造主となり大きな勢力を作り、光の創造主を圧倒していた。</p> <p>そのために地球を始め多くの宇宙に闇がはびこり、ダークピープルが宇宙を荒らしまわる事となった。</p>
物理的宇宙	<p>宇宙連合によって生み出された宇宙、多くの銀河や星団に別れ独自に発展している。</p>
	<p>闇の創造主やダークピープルによって地球だけでなく多くの星々が闇が多い世界となり、人々の成長を阻害している。</p>

## PART 1 スターピープルの役割と組織

これから私達は宇宙連合と共に活動していく事になりますので、スターピープル達や創造主、宇宙連合の仕組みを皆さんにご紹介するところから始めたいと思います。

### 【スターピープル】

私達は、地球に住む地球人ですが、地球以外の星から来て地球に関わる地球外生命体達もたくさん存在しています。

彼等は、目的によって2つのグループに分かれます。

それは、地球人を成長させるために、人々をより良い方向へ導く善良な地球外生命体達（スターピープル）と地球を支配し地球人を自分達の思いのままに利用したいと考えている狡猾な地球外生命体達（ダークピープル）です。

良心的な地球外生命体達であるスターピープルは、天の川銀河の中でも、地球よりも早くアセンションを行い、宇宙のために活動している星々の人達の事です。

主にアンドロメダ座、シリウス、アルクツールス、プレアデイス星団の人々が、現在地球に関わっていますが、全て宇宙連合に属し、宇宙連合の計画と指示のもとに行動しています。

そして、各星固有のスターピープルとは別に、高度な叡智を持つ星々のメンバー達が集まって作られたアシュタールや銀河連合といったグループも存在しています。

彼等は常に、宇宙の進化のために下記のようにいくつかの役割を持って活動しています。

1 創造主をサポートして、宇宙を創造し運営する仕事。

2 創造された星々や星に住む種族が侵略されたり破壊的な状態になる事を防ぎ平和に保つ事。

3 未だ十分に意識進化していない人々を導き成長させる事。

4 ある程度の意識進化の段階になった人々をアセンションさせ、スターピープルに進化させる事。

彼等は、愛の度数や意識状態が高まるごとにアセンションを行ってさらに愛や叡智が高い状態へと移り変わっていきます。

アセンションが進むと、スターピープル達は物理的な体から半物理的な体に移り変わり、第6アセンションを超える頃には、ほとんどのスターピープルが物理的な体を失ってスピリット体へと変わっていきます。

宇宙連合でも肉体を持つスターピープルの多くが、第1評議会に属し、地球のように物理的な肉体を持つ種族や物理的な世界を持つ星々に直接関わる事ができます。

しかしアセンションが進み、完全に肉体を失うと特別な種族を除いて物理的な種族や世界に関わる事ができなくなりますので、宇宙の中でも他の役割を担う事になります。

それは、第1評議会や第2評議会のスターピープルのサポートや教育を行ったり、宇宙の平和を観察したりする事です。

更に成長したスターピープルになると、創造主と共に宇宙の創造を手助けする仕事を行うようになります。

それでは次に、どのようにして、通常の生命体がスターピープルへと成長していくか説明しましょう。

スターピープルへの第1歩は、もともとその星に存在している生命体の中でも、これから叡智を持つ可能性があると思われる種族に、優秀なスターピープル達の遺伝子を組み込んで成長させる事です。

地球では、そのために選ばれたのが、類人猿と呼ばれる種族だったようです。

彼等は、意識が成長してくると村社会を作り、社会性や自我意識に目覚めてきます。

そして次の意識進化のための遺伝子操作を受けると成長していきます。

やがて彼等は、長い期間をかけてスターピープル達から教育を受け、様々な技術や文化的な側面を成長させて文明を形成していきます。

スターピープル達は、彼等の社会にあまり介入する事なく、さまざまな機械技術や宇宙工学などが発展するように、彼らの能力を高めていきます。

また、様々な技術のアイデアを、夢などを通して、人々に与え成長の手助けをします。

これもスターピープルになるためのトレーニングのひとつです。

そして人々が、ある一定の意識と愛の水準になったら、その星の種族にアセンションをおこして、大きな意識進化をもたらします。

最初のアセンションを通してもたらされる進化とは、自分達の星以外にも素晴らしい叡智を持っている人々（スターピープル）が存在し、それらの人々が宇宙の進化と平和のために貢献している事を知る事です。

そのために、スターピープル達が人々の前に

現われ彼等を直接指導する事が起こります。私達地球人は、現在、この第1アセンションを迎える時期となっています。

アセンションを通して目覚めてきた人々は、スターピープル達と共に活動を始め、宇宙に貢献できるようになります。

そしてその貢献が認められると、やがてスターピープルの一員となり宇宙連合へと加入する事になります。

宇宙連合へは、第1アセンションを行うと加入できますが、この時期はスターピープル見習いとして、先輩のスターピープルと共に活動します。

やがて第1アセンションを終えた人々が更なる成長を遂げると、愛の度数も高まり第2アセンションを迎える事ができるようになります。

第1アセンションを迎えるためには、自分達の種族や叡智あるスターピープル達を愛し尊敬する事を学びますが、第2アセンションを迎える為には、自分達の種族だけでなく、未だ発達途上の種族も含め、この宇宙に存在する多くの種族達を平等に愛する事ができるようにならなくてははいけません。

なぜなら、第2アセンションを成し遂げたスターピープル達は、まだ十分な意識の成長を成し遂げていない種族の人々と単独で関わる事になるからです。

この時に高い愛の意識に達していないと、まだ十分に成長していない種族にたいして、彼等を尊重するのではなく彼等を自分達に服従させたり、自分達のやり方を押し付けたりしてしまい、彼等の意識の成長を妨げてしまうからです。

第1評議会のスターピープル達は、第6アセンションを達成すると第2評議会へと移りますが、この時はすでに肉体としてではなくスピリット体として働く事になります。

そして、今まで培ってきた経験をもとに第1評議会のスターピープルを指導したり、創造主のお手伝いをする事になります。

## 【ダークピープル】

スターピープルにたいして、闇のエネルギーに飲み込まれて、自分達の欲望のために活動する種族を、ダークピープルと呼んでいます。例えば、オリオン星人やアルクツールス星人のように同じ星の人々でも、進化の過程でアセンションを繰り返してスターピープルになる種族もいれば、ディセンションしてダークピープルになる種族もいます。

ダークピープルになる種族は、闇の創造主によって彼等の部下にされ、未発達な星の人々を、闇の創造主に従属させたり支配するために働かされる事が普通です。

彼等自身も本来は純粋な気持ちを持っているのですが、支配欲や攻撃欲などをかきたてられ、愛の心を失っていきます。

すると、彼等はどんどん欲に染まって、自分の意思で人々を攻撃し支配する事を好むようになり、ディセンションを繰り返す事となるのです。

ディセンションを繰り返すたびに、ダークピープルは闇の力を身に着け強力なパワーを持って未発達な種族を支配するようになります。

今迄の地球の歴史がそうでした。

争いや奪い合いが繰り返され、人々は人間と

しての尊厳を失い、殺されたり傷つけたりされてきました。

経済が発展している世界では、多くの人々が一部の裕福な人のための奴隷として無理やり働かされてきました。

そして科学技術が発展すると核兵器や原子力発電など人々や地球環境に大きなダメージを与える技術も作られ、地球の破壊へと人類は歩いていくのです。

私達のアセンションへの道のりは、まさにこの地球人を支配してきたダークピープルや彼等を操る闇の創造主との戦いでした。

現在は、今までの地球を、闇が多い地球と光が多い地球に分け、闇が多い地球は今までの地球と同じく闇の創造主やダークピープル達が支配しますが、光が多い地球は、ダークピープルや闇の創造主はすべて排除され、スターピープル達が見守り、アセンションしていく人達を育てるための地球となっていくます。

本来アセンションは、その星にすむ種族達がすべて同じように意識進化していくのですが、この地球に関しては、1人1人の意識が多様化しており、愛の度数も精神の発達具合も全く異なりますので、全ての人と同じようにアセンションする事はできませんでした。その大きな要因が、このダークピープルとどのように関わっているかという事でした。

同じ日本人でも、他人に優しくして貢献したいと考える人もいれば、他人をだましてもお金を儲けたいと考える人もいます。

また、自然災害などで困っている人を助けたいと考える人もいれば、自分の欲望のために他人を傷付けたり利用したりする事を平気で行う人もいます。

それらの事柄がすべてダークピープルのせいであるというわけではありませんが、彼等のエネルギーが大きく関わっている事は確かです。

ダークピープル達は、スターピープル達が地球人に関わる事で、地球人が目覚めアセンションしていく事を大変嫌い、常に私達の妨害をしてきました。

それは、1人でも多くの地球人を欲望の虜にしてディセンションさせ、自分達の支配下に置いて利用していたいからです。

人々はその事に気づかず、自分達の欲望のままに生きていくと、争いや支配欲に満ちた世界から抜け出す事ができなくなります。

そして、自らもディセンションしてしまうのです。

私達は、地球の人々が1人でも多くアセンションしてスターピープルになれるように、ダークピープル達を処理したり、地球人に大きな影響を与えている闇の創造主達を光に返してきました。

彼等に捕えられている皆さんのスピリットの一部も開放して、地球の人々がスピリットの統合を果たし、自分が本来持っている「愛」のエネルギーに目覚める事ができるように努力してきましたが、人々が自ら、自分が持っている愛に気づき、自分のスピリットを受け入れる事ができなければ、その人は何も変わる事はできません。

地球は2019年の末までに大きく分離されていきますので、それまでに光が多い地球へと入って頂き、スターピープルへの道を歩んでいただきたいと思います。



## PART 2 創造主の目的と区分について

地球では、創造主というのは唯一万能な存在であり、過ちなどを犯すはずはない存在とされています。

また愛に満ち、多くの人を慈悲の心で助けてくれる存在だと思われていますし、私もそう思い続けてきました。

しかし、私達はアセンションを進めるにつれて様々な創造主に会いました。

そして分かった事は、創造主は唯一無二の存在ではなく、役目や階級に応じて無数に存在しているのだという事です。

そして全ての創造主が、万能であり過ちを犯すはずがないという考え方は大きく間違えているという事です。

もちろん、私があった創造主の中にもその様な尊敬すべき創造主はいましたが、本当に僅かでした。

創造主の中には、自分の欲望やエゴに負けてしまい、この宇宙を自分が好きなようにしたいと考え、自分の部下にあたる創造主やスターピープル達を利用して、地球人や多くの星の人々を支配しようとする創造主達もたくさんいたのです。

もし、全ての創造主が、愛と慈悲に満ちていたなら、この地球のように戦争や侵略、あるいは殺人や暴力、経済的な抑圧や自然破壊などは決して起こらなかったでしょう。

創造主自身が暴力と支配を好むからこそ、地球のような闇が深い世界が生まれてきたのです。

ギリシア神話に出てくる最高の神であるゼウス神も自分の欲望の赴くままに、女性達をさらいたくさんの子供を生み落させました。

もちろんこれは神話ですが、ゼウスと同じように自分達が作った宇宙は自分達が自由勝手に扱ってもよいと考える創造主達が、実はたくさん存在しているのです。

ではなぜ、その様な存在が創造主としてこの宇宙に君臨しているかという事をお話ししましょう。

それは簡単な答えです。

創造主から宇宙の創造と運営をするために作られた存在だから創造主なのです。

創造主は肉体を持ちませんので、誰かの体から生まれて成長していくわけではありません。

上位の創造主から目的に応じて、自分の光を分けて作られます。

高次の光には意識や能力が伴いますので、光を分かち与えられて生まれた創造主は、生みだしてくれた創造主の能力と資質の一部を持つ事になります。

その資質と能力を使用して、上位の創造主の指示のもとに宇宙の創造や運営を行い、与えられた任務を果たします。

生みだされた創造主は、自分を生みだしてくれた創造主には絶対に逆らう事はできません。

逆らった場合には、自分の元となった創造主の光のもとに返される事となります。

私のPDFブックをお読みの方はお分かりかと思いますが、私は、問題がある創造主に対処する場合には、必ずその創造主を生みだした創造主か一つ上の創造主にあらかじめ相談して処理を行なう了承を取り付けます。

そして問題がある創造主を問い詰め、問題がある創造主が自分の罪を認めるか、その創造主を生みだした創造主が、更生の余地がないと認めた場合には、上位の創造主の判断によ

って、問題を起こした創造主を光に返す事ができるのです。

私は、多くの創造主が行ってきた事を調べる為に、地球の物理次元に生まれ、2013年から6年をかけて一つ一つ宇宙の次元を上がり、下の階級の創造主から宇宙を創造する役目を持つ創造主の位置にまでたどり着きました。

そして、1人1人の創造主の働きを見ながら問題がないかを調べてきたのです。

問題がある創造主は、私達の活動や地球のアセンションに対して大きな妨害を働いてきます。

すぐには分からなくても、一緒に行動しているうちに、私達を裏切るような行為をしたり、闇の創造主の命令をうけて私達を罠にかけようとしています。

何故地球人の私が、創造主の世界に入り、創造主の問題を明らかにして創造主を光に返す事ができるか不思議でしたが、地球のアセンションが進むにつれて、高次元の創造主が、多くの創造主の墮落にすでに気づいていたために、私を地球に降ろし、創造主が犯している罪を調べ上げる役目を私に与えたという事が分かってきました。

地球のアセンションは、地球に住む人々にとっては、自分達の意識を高め、スターピープルになるための第1歩ですが、高次元の創造主にとってみれば、墮落した創造主や闇に落ちた創造主を探し出し、彼等を光に返す事で、まともな創造主だけが残る宇宙を創るための壮大な計画があったようです。

次に創造主のレベルについて大きくご紹介しますが、レベルに関しては、私が簡易的に

区分けしたものです。

## ★物理世界を持つ宇宙

### ○第1レベル 天の川銀河の中の創造主

階層としては一番下の階層の創造主です。主に星々や星座の働きを保ち、星に存在する生命達を生みだします。

彼等は星座の創造主とも呼ばれています。

その上には、天の川銀河全体の管理と創造を行う創造主もいます。

### ○第2レベル 局部銀河の創造主

私達にとって観測可能な宇宙（ユニバース）の中でも、天の川銀河やアンドロメダ銀河を含む局部銀河が一つの宇宙の単位となっています。

この局部銀河を治める最高の創造主は、私達が「界王」呼んでいる創造主で彼のもとに多くの創造主が役割を分担して存在しています。

私は、局部銀河の運営にたずさわる創造主を「グレートゴッデス」と呼んでいます。

特にグレート・イエスやグレート・マリアは地球の事をとても大切にしてくれています。

### ○第3レベル 観測可能なユニバースを統治する創造主

物理的な世界を持つ宇宙（ユニバース）を直接統治する創造主達です。

主に第4レベルの創造主に対応する創造主達がいる、第4レベルの創造主の指示のもとに単一宇宙であるユニバースを運営しています。

### ○第4レベル 多次元宇宙を統治する創造主

観測可能な宇宙だけでなくパラレルワールドも含む多次元宇宙を統治する創造主達の世界です。

そのリーダーは、エンソフと呼ばれる創造主です。彼のもとに、星々を創造する創造主、人々の運命を司る創造主、宇宙の安定を保つ創造主、ドラゴンや精霊を生き育てる創造主、4大エレメントを駆使して宇宙を創造する源のエネルギーを作る創造主、叡智ある存在が適正に育っているか調べる創造主などが存在して、多次元宇宙の創造と運営を行っています。

## ★スピリチュアルな宇宙

### ○第5レベル 物理的な宇宙を創造し運営する創造主

このレベルの創造主からは、たくさんの階層と役目を持った創造主が存在します。

物理的な宇宙を創造し運営する役目を持ち、私達の物理世界にも関わられる創造主達です。第1評議会の中心的な創造主達になります。リーダーは、「源の創造主」「光彩の創造主」で宇宙のスーパーコンピューターを管理する創造主なども含まれます。

### ○第6レベル 物理的な宇宙を管理しスピリチュアルな宇宙を創造する創造主

主に第2評議会、第3評議会の創造主達で、上位の評議会の創造主の指示のもとにスピリチュアルなレベルでも宇宙を創造していきます。

彼等は、上位の評議会の決定を自分達の評議会でも議論し、どのような方法で宇宙の創造と運営を実行するか決めて行動します。

### ○第7レベル スピリチュアルな宇宙を創

## 造する創造主

主に第4評議会の創造主で、物理的な宇宙の元となるスピリチュアルな宇宙を作ります。この宇宙の原型を基に、第3評議会と第2評議会の創造主やスターピープル達がスピリチュアルな宇宙の細かい創造を行います。彼等は、マルチな能力を持つ創造主で1人1人が独立して、自由に宇宙の創造を行う権利が与えられています。

## ○第8レベル 創造された宇宙の管理を行う創造主

第5評議会以上の創造主達は、宇宙の創造は行いませんが、彼等よりも下の評議会の創造主が作った宇宙が適切に運営されているかどうかの検査を行っています。

非常に高い能力を持っている事はもちろんですが、どの次元にも自由に入る事ができ、多くの宇宙を見守っている創造主です。

## ○第9レベル いくつもの宇宙を管理する創造主

第9評議会以上の創造主達は、私達の宇宙以外にもいくつもの宇宙に関わり創造や管理を行うようになります。

## ○宇宙連合の評議会について

宇宙連合は、私達の天の川銀河やアンドロメダ銀河だけでなく多くの星団や星雲が含まれる宇宙をいくつも束ねた大宇宙を見守るグループです。

私達は、宇宙の本当の姿を未だ知りませんが、私達にとって観測可能な宇宙をユニバースと呼ぶのなら、そのユニバースの中に存在している創造主やスターピープル達の連合と

考えてもよいと思います。

しかしこのユニバースの中にも計り知れない銀河が存在しているのも事実です。

また、私が語る話はスピリチュアル・レベルの話ですので、実際の天文学の話とはかなり異なるという事だけをご理解ください。

先ず宇宙連合は、宇宙を創造し運営する創造主達とその仕事をサポートするスターピープル達の集まりです。

創造主やスターピープルの能力や資質、そしてその働きによって異なる階層の評議会に別れて活動しています。

その階層のリーダー的な創造主達とスターピープル達によって評議会の会議が行われ、自分達の行動が決定されます。

**第1評議会は、宇宙連合では一番下の評議会として、物理的な宇宙の運営に当たります。**

第1評議会は、創造主もスターピープルも最も数が多く、その役目も多岐にわたります。この評議会に属するスターピープル達は、物理的もしくは半物理的な体を持つスターピープル達ですので、地球を始め物理的な世界を持つ他の星々にも関わる事ができます。そして、地球人も含めて、まだ十分に成長していない人々に対して、意識進化のための様々な取り組みを行います。

宇宙連合の第1評議会は、物理世界を持つ多くの銀河や星団に関わり、その銀河や星団、もしくは星々の平和を守るための活動を行います。

第1評議会の中には、アシュタール連合のように独自のグループを作って活動している

者達もいますが、彼等も第1評議会の指示のもとに動いています。

また第1評議会は、スターピープルの説明のところでご紹介したように、未発達な星々の種族を成長させスターピープルへと導く仕事も行っています。

この宇宙の中で一つでも多くの種族が愛と叡智に目覚めて宇宙の平和のために貢献できるようにする事が第1評議会の目的でもあります。

第2評議会と第3評議会は、スピリチュアルな宇宙と物理的な宇宙の創造に当たります。

もちろん物理的な宇宙に関しては、第1評議会が中心となって創造活動を行うようですが、第1評議会を指導し、より良い宇宙を創る事が彼等の仕事でもあります。

しかしながら、これからのレポートでもご紹介するように、第4評議会に属する創造主が闇に落ちてしまった事で、第3評議会、第2評議会の創造主達も大きな闇に巻き込まれる事になりました。

その結果、第3評議会のほとんどのスターピープル達が闇の世界に閉じ込められ、第3評議会の仕事が順調におこなわれていないという事態に陥っていました。

第4評議会は、スピリチュアル・レベルの宇宙の創造を行い、物理的な宇宙のひな型を作り出していきます。

この第4評議会の創造主は、自分が創造する宇宙の全てを任されているので、自分の考えだけで独自の宇宙を作り出す事ができます。



第5評議会から上の評議会は、物理的な宇宙の創造には関わりませんが、創造主達を指導したり、下の階級の創造主が作り出した宇宙を検査する役目を持つ創造主達の世界です。

第5評議会の創造主達は、宇宙創造に必要なエネルギーを、第4評議会の創造主達に供給します。

第4評議会の創造主が闇に落ち地球の支配を計画している事が分かると、他の評議会の創造主やスターピープル達では対応できないので、彼等が中心になって地球の物理世界を調べ、この創造主達を処理する役目を担ってくれました。

	スターピープルの特質
第5評議会 以上	非常に能力が高いスターピープル達が他のスターピープル達を指導。
第4評議会	創造主達が宇宙を創造するために必要なエネルギーや技術を提供するための特別な能力を持つスターピープル達が存在している。 ネターシャ達の種族
第3評議会	第10アセンション以上のスターピープル達。 グルナレッドやミスト星人等。宇宙のエネルギーの適正化を行ったり、宇宙の健全な運営を担うための働きをする。 グルナレッド達の種族
第2評議会	第5アセンションから第10アセンションのスターピープル達。 ロッド星人やエリシタールなどが属し、第1評議会のスターピープルを助けて、叡智ある存在の成長を手伝う。

<p>第1評議会</p>	<p>第1アセンションから第5アセンションまでのスターピープル達。アシュタール連合や様々な星のスターピープルによって構成され、宇宙の平和と成長を守り各星の人々の意識進化を手助けする。</p>
<p>物理的宇宙</p>	<p>スターピープルとダークピープルが存在。アセンション前の存在達は宇宙連合には入れない。</p>

## 光りの世界の区分

### ○光りの世界の区分

ここでは、まず光の地球といっても一つではなく、光に依じていくつもの地球に分かれている事をお知らせしておきます。

そして、ここでは大まかに60%台、70%台と書いていますが、本当は、1%単位で世界が異なっていますが、大まかな区分のみで説明させていただきます。

地球の光と闇の割合は、およそ光40%、闇60%、現在はもう少し光の割合が多い世界の様です。

この割合の世界では、闇の力が強いので、戦争やテロ、殺人や虐待、人種差別などが起こりますが、光の割合が50%を超えると、戦争や殺人などもほとんど起こらなくなりますが、まだ学びが必要な人には、その学びにふさわしい事が起こります。

60%台になると、愛と調和に満ちた人々が増えてきますので、人間としての完成を目指すような学びが始まります。

しかしそれは争いなどの人を傷つける事ではなく、どれほど愛を注げるか、とかどれほど人のために尽くせるかなどといった、とてもポジティブな学びになります。

また人々も、言葉でなく意思疎通ができるようになりますので、嘘を言ったり心の中に隠し事ができなくなるような世界になるかもしれません。

そしてさらに大切な事は、スターピープル達に対する理解が求められるようになります。

更に光りの度合いが70%よりも強くなると、学びが少なくなり、愛と共に生きようになりますので、争いや差別などもほとんど起こらずに調和に満ちた世界が繰り広げられます。

生きている人では70%台が最高クラスになるようです。

更に光りの割合が80%を超えると、もう物理世界に生きている人はほとんどいなくなり、宇宙の運営に関わる仕事を始める事でしょう。

それでは、どのような人がどのような世界に入れるか、創造主の極秘事項ですが、こっそりお教えしますので、少しでも上の世界に入れるよう努力してください。

またこの事は、私達の主観ですので、違うと思う人は信じる必要はありません。



光90% 台の世界	宇宙の管理者として働くスピリチュアルな存在達の世界。
宇宙のマスターの 世界	憎しみや争いなどとは無縁で愛と調和のみが存在する世界。 また宇宙の管理者となるべく学

	<p>びを行う世界。          自らが愛と光りになるために学びを行うスピリット達の世界。</p>
<p>光80%          台の世界          宇宙と地球に生きるマスターの世界</p>	<p>宇宙のために働くスピリチュルな領域に生きる人々。          自らもスターピープルとなり、宇宙の中にある様々な問題の解決のために働く事を喜びとしているスピリット達。          ここに入る人は、宇宙で起きている事を深く理解し、常に真実を求め努力してきた人。          地球においては、地球の中にある不正を知り、それを正すために戦い、地球と地球に生きる人々を自由で平和な者にするために常に努力してきた人々。          この地球の闇を知りながらも、憎しみを捨て愛によって生きてきた人達。          人間としてのエゴを捨て、自分の人生を他人のために奉仕してきた人達。</p>
<p>光70%          台の世界          物理的な光の地球での指導者の世界</p>	<p>光80%の人達と同じように、地球の闇と闘い続けてきた人達の中で、自分のエゴや欲望を捨て、愛の人として生きる実践を行う人々。          またスターピープルの事を深く知り、彼らと共に働ける人。          自分の感情に振り回されずに常にニュートラルな立場にあって真実を追い求める人          地球と人の事を、愛をもって考え行動してきた人達が、肉体を失っ</p>

	<p>た後に行く世界。        現実世界に生きる人も少数存在し、地球の人達が光りの世界に行くためのサポートをスピリチュアル・レベル、現実レベルで行う。60%台の世界の学びを終えてからこの世界に来る事が多いようです。</p>
<p>光60%        台の世界        地球では        光の世界        として新        しく生ま        れた世        界。        宇宙意識        に目覚め        るための        世界</p>	<p>60%台の後半の人は・・・        常に正義と愛のために生きてきた人。        欲望に振り回されず、欲望と感情を上手にコントロールできて、自分の中の光と闇を統合してきた人。        スターピープルの事を理解し上手に付き合う事ができる人        この世界は、さらに上の世界に行くための通過点として、肉体をもって学びを行う人達が入る世界。        少数民族の人達の仲でも、一般社会を知りながらも、その社会に毒されず、常に祈りを行ってきたシャーマンや神官、少数民族の文化やしきたりを守ってきた人々。        ここに属する人は、これからの「光の地球」をしっかりと守護し、人々を導いていく立場にある。</p> <p>60%前半の人は・・・        光の世界にはいる為の教育が行われる世界。        地球や宇宙の仕組みを学ぶために生きてきた人達で、さらにその学びを続ける人。        しっかりと愛や調和を目指して</p>

生きてきたが、まだ十分に実現出来ておらず、自分の中の光と闇もしっかりと統合できていない人。周りの人に対して愛と奉仕の気持ちを持って生きてきたが、今まで宇宙や地球に対しての理解も十分でなくスターピープルの事もよく知らない人達が、学びを行うための場所。

この世界では争いや戦争、差別や虐待もなくなり、地球人同士でも愛に基づいた関係がはじまり、安らぎと光りに満ちた世界が生まれてくる。

光56%  
~59%  
の世界  
光りが多  
い学びの  
世界

この世界からアセンションした世界としてスターピープル達により保護される世界になります。

今の地球よりはさらに光がある世界で、戦争や争い、虐待、殺人などは減り、愛と調和に満ち、自然破壊などもなくなり環境問題も解決していく世界となるでしょう。

この世界に行く人は、今の世界でも良心を持って生きてきた人で、人の役に立ちたいと考えて生きた人達です。

そして、地球人としての進化を望む人がこの世界に入り、光の世界へ入るための学びを行います。

この世界の学びは「愛の実践」です。

宇宙の愛を身につけ、人のために奉仕する事がこの世界の学びとなります。

この世界で学びを終わった人は、

本格的なアセンションの世界である光60%以上の世界に生まれ変わります。

強い欲望や支配欲を持った人や人と争う事が好きな人は入れません。

人をだました人、人に不正を働く人、自己中心的な人は入れません。

光47%  
～55%  
の世界  
光と闇の  
境界の世  
界

ここは光りの世界と闇の世界の境界線にあたる世界で、中間の世界とも呼ばれています。

現在の地球よりは、光が強くなりますので、戦争や虐待などはすこしずつ減ります。

時間がたつにつれ、現在よりはまともな政治家や経済人が現れ、社会の変革も進むでしょう。

この世界にはいる人は、戦争や支配、抑圧のある世界を嫌っている人で、もっと愛に満ちた世界、調和のある世界に入りたいと考えている人達です。

また他人のために役に達たいと思いい行動している人や他人に親切にする事が好きな人達がこの世界に入ってきます。

ただしこの世界には、狡猾な地球外存在達もすでに入り込んでいるので社会の混乱や自然災害も起こりますので、その様な事を乗り越えていく事が、この世界の人々の学びとなります。

ヒーリングやスピリチュアルな仕事をしている人でも、人々の幸福のために働いている人は、この



	<p>世界に入りますが、物欲や支配欲、名誉欲のためにしている人は、ここからさらに下の世界に行く事になります。</p>
<p>光40% ～47% の 世界 現在の地球と同じ 学びの世界</p>	<p>ここからが、アセンションとは反対にディセンションした世界となります。</p> <p>光40%台の世界は、今までとほとんど変わらない世界で、戦争や争い、テロ、詐欺、レイプ、傷害などが日常的に起こっている世界です。</p> <p>経済的な侵略によって、世界の人々は貧富の差が激しくなり差別を受けます。</p> <p>宗教、技術、論理もすべてが争いのために利用されます。</p> <p>この世界に行く人は、自然災害や戦争、原発の事故なども含め、現在の地球が体験する未来をともに体験する事になります。</p> <p>現状の世界を好みお金儲けやぜいたくな生活をしたい人達、人や自分や他人にたいして不誠実な生き方をしてきた人達は、この世界にそのまま残るようです。</p> <p>他人を支配をしようと思う人、他人に依存したり、他人支配される事を好む人もこの世界にとどまります。</p> <p>この世界は多くの地球外生命体達も存在しますので、彼等の支配を受けず自立していく事が、この世界の学びとなるでしょう。</p>
<p>光30% 台の世界</p>	<p>今の地球よりもさらに闇が多くなりますので、現在よりも状況が</p>

闇が多い  
学びの世  
界

はるかに悪くなります。  
戦争やテロが多発し、多くの人が  
争いや原発事故、自然災害に巻き  
込まれ苦難の多い人生を送る事  
になるでしょう。  
そして人々はその中で多くの事  
を学び目覚めていくための機会  
を待つ事になると思います。  
この世界には、多くの欲望に取り  
付かれ、他人を支配したり傷つけ  
る事を好んで行ってきた人達が  
いく世界になると思います。